2. UWEPEKER (2)

2. 民 話 (2)

A=KOR EKASI I=RESPA HÍNE

私はおじいさんに育てられて

川上まつ子　1976年8月6日録音

1 a=kor ekasi i=respa híne oka=an pe ne hike,

2 i=kay kane wa, pet or péka, kim péka, iyepa híne anakne iwor or péka, yuk ne ciki, kamuy ne ciki (eawr) rawketupa,

3 nep a=e rusuy nep a=kor rusuy somo ki no, arikiki p a=kor ekasi ne korka kunne hene tókap hene sinotcaki kor,

4 nep kar yakka sinotcaki kor patek, i=kay kane wa nepki p ne hike sinotcaki kor an humi ne kunak a=ramú kor án=an a p,

5 poro=an wa inu=an akusu, (ci) cis kor patek an pe ne aan wa, nep ciskar hi ne ya a=erámiskari no, cis patek ki kor, pet cicay péka ponyakor wa ceppokoyki i=epakasnu.

6 "taa néno ceppokoyki=an pe ne na, néno é=iki.

7 ora, a=koyki ceppo anakne taa néno taa néno a=kar wa, rupne pa

1 私はおじいさんに育てられて、おじいさんと一緒に暮らしていましたが、

2 おじいさんは私をおぶって、川や山に行き、達者なときは山の奥まで行って、鹿でも熊でもとって来ました。

3 私は何を食べたい、何がほしいと思わず、満ち足りていました。それほどおじいさんは働き者でした。けれども夜も昼も歌を歌いながら、

4 何をするときもいつも歌を歌いながら、私をおぶって働いていたのですが、それを私は歌を歌っているのだと思っていましたが、

5 大きくなって聞いたところでは、泣いてばかりいたのでした。何を泣いていたのかはわかりませんでしたが、泣いてばかりいて、泣きながら、川の岸近くの浅い所で、小さい網で小魚をとることを私に教えてくれました。

6 「こういうふうに小魚とりをするものなんだよ。お前もこのようにするんだよ。

7 それから、とった小魚は、こうい

1　**a=kor ekasi...** アコロ エカシ...　直訳すると〈私のおじいさんが私を育てて私たちは暮らしていた〉。respa レシパ は複数形。一人が一人を育てることを言うのに、これまでの昔話の用例では、特殊な 場合を除き、単数形 resu レスが使われていた。

2-1　**pet or péka ... iwor or péka** ペトル ペカ ... イウォロル ペカ　péka は動き回る範囲のある場所を示す。〈...で(...する)、...を(歩くなど)〉。iwor イウォロ〈山の中〉は、基本的には尾根と尾根の間の広い谷間(たにあい)を指すらしいが、山奥のそういうところは神の住む地であり、熊猟や鹿猟が行われたという。「川で」「山で」「山の中/山奥で」とは、単に場所を言うだけではなく、川では魚をとり、山ではおそらく採集やたきぎとりをし、山奥の猟場では狩猟をしたわけである。

2-2　**iyepa** イイェパ　[<i-epa ものごと・に届く]。iyepa híne anakne イイェパ ヒネ アナクネ を語り手のまつ子さん(以下、(語り手KM)と略記する)は〈達者なときは〉と訳した。『バ辞典』:「*Adj. Able. To feel able.*」

2-3　**rawketupa** ラウケトゥパ　eawnarura エアウナルラ〈(熊や鹿)をとってくる〉と言いかけてから言い換えたのであろう。〈出掛けて行って...の仕事をする〉または〈(生活の糧(かて)など)をかせぐために働く〉。「民話(1)」85には rawketupa ラウケトゥパ が、102には eyayrawketupa エヤイラウケトゥパ が使われており、(語り手KM)は〈働く〉と訳している。いずれも、他動詞で、不定人称の人称接辞 a= が接頭しているが、目的語は名言されていない。(福満S)ら、昔の話者の言葉には、接頭辞 i=〈ものごとを〉のついた irawketupa イラウケトゥパ〈仕事をする〉が出ており、現代の〈職業〉を言うのにも使われていた。☞民話(1) 85–2, 102

4　**patek** パテク　〈...ばかり〉は、この場合、〈いつも...する〉。

5　**ponyakor** ポンヤコロ　[pon-ya-kor 小さい・網・を持つ]「y の前で n は y になる」という音素交替規則を(語り手KM)は持っていない。ポイヤ でなく ポンヤ と発音している。

p anak tuye a=yasá wa parka a=omáre, túna ka a=omáre wa a=satsatu.

うふうに、こういうふうにして、大きいのは腹をさいて、天井の棚の上にのせたり火棚の上にのせたりして干す、

8 nokan pa p anakne imanit (a) or a=eúsi wa a=ma wa, a=uwékarpare kor (ma) sir-mata kor kina (ra) rataskep mun rataskep a=kosúpa wa, a=e easkay pe ne na, (neiko) néno é=iki p ne na.

8 小さいのは串に刺して焼いて、ためておけば、冬になったら、野草のまぜ煮と一緒に煮て、食べられるんだよ。お前もそういうふうにするんだよ。

9 menoko e=ne kusu okkayo iramante ene ne hi ka isam kusu,

9 お前は女だから、男のする狩猟はどうしようもないから、

10 kemapase=an wa apkas eaykap=an yakun orowano, e=kor kina rataskep mun rataskep i=par e=eoyki p ne ruwe ne na.

10 私が足腰が弱って歩けなくなったら、お前の野草のまぜ煮を食べさせて養ってくれるんだよ。

11 tap néno tap néno kina ka a=kar pe ne na. (ta) taan kina somo a=e p ne, (tap) taoká kina a=e p ne wa, a=satsatu hi ka taa néno taa néno a=kar pe ne na"

11 こういうふうに、こういうふうに野草もとるんだよ。この草は食べられない。これらの草は食べられる。干すのもこういうふうに、こういうふうにするんだよ」

12 sekor patek i=epakasnu kor, a=turá kane wa iwor or péka iki=an, pet or péka iki=an kor án=an pe ne ayne tane (a) a=kopóro.

12 と、いつも私に教えてくれました。私は教わりながらおじいさんと一緒に山の中や川のところでいろいろして暮らしていました。そうしていて、もう大きくなりました。

13 poro matkaci a=ne hi orano, a=kor ekasi kemapase wa apkas eaykap hi orano sinen a=ne wa, a=uníhi piskani péka ne yakka, sir-mata kor, sir-sat kor, kinakar=an.

13 大きくなってから、おじいさんが足腰が弱って歩けなくなってからは、私一人で、家の周囲などで、冬になると、...(?)、野草とりをしました。

7-1 **parka omare** パルカ オマレ　[par-ka 天井空間の下端・の上] par パラ は《口》と同語であろうか。昔の cise《家》には天井板は張ってないが、壁と屋根との境目の桁から桁へ、横の梁から横の梁へ、通常二本ずつ、木が渡してあり(その縦のものを parpesni パルペシニ または paruspe パルスペ [雅] といい、この語に par が含まれている)、その渡し木(通常は横木)の上、またはその上にまた細い木を渡して棚にしてあるものの上を parka パルカ という。(ペナコリUT):「魚は horikasi racitkere ホリカシ ラチトケレ《上から下げる》、parka wa racitkere パルカ ワ ラチトケレ した」。つまり、横木の上に渡した木にかけておいて干した。(千歳SN):「いろりの上の横木の上にまた木を置いて棚にして、その上に小魚を束ねて置いて干すようになっていた。こぼれてくるようなものを載せるのには、aputki アプトキ という簀(す)を編んで載せて、その上に上げる」。

7-2 **túna ka omare** トゥナ カ オマレ　《火棚(いろりの上の物干し棚)の上に載せる》。(千歳SN):「置くものに何か、細かいものがある時は、túna トゥナ に aputki アプトキ を置く」、「棚みたいなところに、aputki アプトキ を載せて、その上に何か干そうと思うものを上げる」。(福満S)の言葉では、aputki アプトキ は、もっと上の、天井のほうの物干し棒の上(parka パルカ)に置いたり、一般にものを干すのに使ったりするもので、火棚の上に細かいものを載せて干すために置く簀(す)は isatkeki イサトケキ《物干し簀》と言う。

8　**kina rataskep mun rataskep** キナ ラタシケプ ムン ラタシケプ　kina キナ も mun ムン も《草》だが、独立して使うと、kina キナ は《食用や薬用や毒になる草、畑のじゃまな草》、mun ムン は《関係のない、そこらに生えている草》、また《ごみ》も。日常 kina rataskep キナ ラタシケプ《野草/野菜の混ぜ煮》ということを、このように対句にして言うのは、伝承文学の言い方らしい。(千歳SN):昔は pukusa プクサ《キトピロ=ギョウジャニンニク》の葉や ohawkina オハウキナ《イチリンソウ》の葉や sikerpe シケルペ《シコロの実》などを、いまはジャガイモやカボチャや豆などを煮る。魚があれば魚を、肉があれば肉を入れる。だからおいしい。昔は冬になる前にたくさん採って干しておき、冬になったらこのような混ぜ煮を作って食べた」。kosupa コスパ は、[ko-supa ...と一緒に煮る]。

9　**ene ne hi ka isam** エネ ネ ヒ カ イサム　《どうしようもない》。狩猟は男の仕事とされており、女はすることはできなかった。

12　**patek** パテク　《ばかり》=《いつも ...する》。「だけ」という意味ではない。

13-1 **poro matkaci** ポロ マトカチ　《大きい少女》。十二、三歳から十六、七歳ぐらいの、まだ大人になりきらない、しかし大人の仕事がなんとかできるくらいになった少女。だいたい初潮年令くらいにあたるが、初潮と直接の関係はない。男の子なら poro hekaci ポロ ヘカチ。☞民話(1) 8

13-2 **kemapase** ケマパセ　[kema-páse 足・重い] 年とって足腰が弱って歩けなくなることを言う。

13-3 **sir-mata kor** シリマタ コロ　《冬になると》。日本語ならば「秋になると」とか「冬が近づくと」とか言いたいところ。(福満W)によれば、mata マタ は真冬、cukkes チュッケシ《秋の終わり》は12月ごろ。言いまちがいか？☞次の注

13-4 **sir-sat kor** シリサト コロ　《乾いたときには》では唐突である。sir-sak kor シリサク コロ《夏になると》の言いまちがいか。あるいは(語り手KM)の言葉で「夏」を sat サト と言うのか。

14 (a) a=e kina a=kor ekasi i=epakasnu p ne kusu a=kar wa a=satsatu, kinasatke=an.

14 食用の草をおじいさんが教えてくれましたので、私はとって干しました。野草干しをしました。

15 ora pet cicay péka (e) ponyakor=an wa ceppokoyki=an kor, earkinne ceppo okay pe ne kusu, nuwe a=koán kor, a=kor ekasi cis kor eyaykopuntek.

15 それから川の岸近くの浅いところで、小さい網で小魚とりをすると、とてもたくさん小魚がいるので、たくさんとって来ると、おじいさんは泣いて喜びました。

16 sama a=omáre kor tuyekar wa, imanit or omare wa ma ne ya, tuye yasa wa, túna ka omare wa (a) satke ne ya, nen nen ki wa

16 おじいさんのそばに置くと、おじいさんは、はらわたをとって串に刺して焼いたり、腹をさいて火棚の上にのせて干したり、いろいろして、

17 ne wa okay pe irammakaka satno kor muyehe a=kar wa parka a=omáre.

17 それらのものがきれいによく乾くと、私は束ねて天井の棚の上にのせました。

18 sir-mata kor mata epitta (a=onáha tu) a=kor ekasi turano, (so) a=e kuni p (a) a=esírkirap somo ki kunine usa kina haru, cep haru a=uwékarpare

18 冬になったとき、冬じゅうおじいさんと一緒に食べるものに困らないように、私はいろいろ野草や魚などを集め、

19 cise okari ni ikir a=kar wa, ni ne yakka somo pus noyne oka pirka (kayk,e) sat cikuni a=numke wa, a=rura wa cise okari ikiri a=kar.

19 家のまわりにたきぎを積んで、たきぎも、はねそうもない、よい乾いた木を選んで、運んで来て、家のまわりに積みました。

20 sir-mata pakno somo soyne=an no oka=an yakka, nep a=esírkirap somo ki kunine iki=an kor patek (án=an pe ne) oka=an pe ne ayne sineanta a=kor ekasi ene hawean hi,

20 冬になるまで外へ出ないでいても何も困ることがないように、ということをいつも気づかって用意するようにしていましたが、あるとき、おじいさんがこう言いました。

15　**ponyakor** ポンヤコロ　☞5

16-1 **tuyekar** トゥイェカラ　[tuye-kar (魚)の腹・に何かする(他動詞形成)]《(魚の)はらわたをとる》。

16-2 **imanit** イマニト　[i-ma-nit ものを・焼く・棒]《焼き串》。木を細く裂き、先をとがらせて作る。魚は縦に刺す。これをいろりの灰の中に立てて魚を焼く。

16-3 **nen nen** ネン ネン　néun néun ネウン ネウン の縮まった形。《いろいろ》。

17　**parka** パルカ　☞7-1

20-1 **sir-mata pakno** シッマタ パクノ　《冬になるまで》。sir-paykar pakno シッパイカラ パクノ《春になるまで》と言うべきところではないだろうか。

20-2 **patek** パテク　《ばかり》=《いつも…する》。直訳すると《…してばかりいた》=《いつも…していた》。

21 "sinen e=ne wa menoko e=ne wa sinen e=ne, iwor or péka pet or péka e=apkas, a=e=épotara kusu, pon kuwa (ae) a=e=kóemsu kusu a=kar ruwe ne na, e=kor kane wa (m) e=apkas.

21 「お前一人で、女のお前が一人で、山の中や川端(かわばた)を歩く、私はそれが心配なので、小さな杖(つえ)をお前に持たせるために作ったから、持って歩きなさい。

22 nep e=kar yakka somo e=opici no, e=ani kane e=niske yakka e=tekehe ta e=kor kuwa e=ani kane kina e=kar yakka nep e=kar yakka, e=ani kane wa patek e=apkas yakne e=sermakkor pe ne ruwe ne na"

22 何をするときも、手からはなさないで持って歩きなさい、たきぎを背負っても、手にお前の杖を持っていなさい、野草をとるときでも、何をするときでも、いつも持って歩けば、お守りになるのだから」

23 sekor hawean kor húre pon kuwa kar híne a=kor ekasi i=emsuka, pe ne kusu ne pon kuwa a=kor kane wa kim péka iki=an.

23 と言いながら、おじいさんは赤い小さい杖を作って私に持たせてくれました。それで私はその小さい杖を持って、山仕事をしました。

24 "kina rataskep mun rataskep, okkayo ta a=ne yakne, sine pon yuk hene a=oskoni wa, a=kor ekasi onne etok ta a=ere p"

24 「野草のまぜ煮、私が男だったらなあ、そうすれば、小さな鹿一頭でもつかまえて、おじいさんに、死ぬ前に食べさせてあげるのに」

25 sekor yaynu=an hikeka menoko a=ne p ne kusu ene a=ye hi ka isam.

25 と思いますけれども、私は女ですから、しかたがありません。

26 kina patek ceppo patek a=emónikor wa, ne wa an pe ne yakka kironnuno, cep ne yakka a=supa kor, mimihi (iron) ironne noyne an pirka uske (a) a=kasúp'enumke wa a=kor ekasi

26 野草や小魚ばかりたくさんとってきて、そういうものでも、おなかがいっぱいになるように、魚なども煮たときは、身の厚いようなよいところを、しゃくしで選んで、おじいさんにあげました。

21-1 **sinen e=ne** シネヌ エネ　sinen e=ne wa シネヌ エネ ワ と同じ。《福満W, S》はあとに wa ワ を置いていたが、《語り手KM》は、wa ワ をつけない形をたびたび使っている。
☞40, 53, 109, 193

21-2 **a=e=kóemsu** アエコエムス　…emusu エムスのようにも聞こえるが、語り手によれば …emsu エムス。語構成も正確な意味も不明。《語り手KM》：koemsu コエムス〈あずける〉(=〈持たせる〉)。23には emsuka エムスカ〈…に持たせる〉が出ている。

23　**i=emsuka** イイェムスカ　発音は iyemsuka イイェムスカ だが、ほとんど iyemuska イイェムスカ のように聞こえる。su の u が無声化の結果脱落し、その代わりに直前の m のあとに u が入ったのであろう。emsuka エムスカ が21の koemsu コエムス とどう違うのか不明。

24　**kina rataskep mun rataskep** キナ ラタシケプ ムン ラタシケプ　〈野草のまぜ煮〉。このあとに「ばかり食べさせて、気の毒に」とか、「ばかりでなく」とかいった言葉が期待されるが出ていない。言いかけて言い直したような言い方でもなく、すぐに okkayo ta… オッカヨ タ… が続いている。なお、この ta タ は〈…だったらなあ〉のような願望の助詞である。

26-1 **kina patek ceppo patek** キナ パテク チェッポ パテク　直訳すると〈野草ばかり小魚ばかり〉。対句になっている。アイヌ語で「(野草)や(小魚)ばかり」ということを言うと、このような言い方になる。

26-2 **emonikor** エモニコロ　文脈からは〈…をたくさんとってきた〉または〈…をせっせととってきた〉と取れる。初出。monikor モニコロ も未出。『萱野辞典』：「モニコロ　忙しい、繁多」。『音声資料6』(二風谷NK民話)：emonipirka エモニピッカ〈…で猟運がある〉(=…がよくとれる)。《福満S日常語》：monipirka モニピッカ〈手が早い、仕事をどんどん片づける〉。

a=koypuni.

27 kasi a=oyki kor án=an ayne tane síno kemapase kor, ene hawean hi,

27 しばらくおじいさんを養って暮らしていましたが、今やほんとうに足腰が弱ってしまったとき、おじいさんはこう言いました。

28 "ney ta pakno tun a=ne wa oka=an wa aynu ne manu p a=nukár ka eramiskari, no oka=an, siri (ene anan, a) ene an wa ora onne=an yakun i=okake ta ene é=iki hi ka isam, kusu,

28 「いつまでも二人きりでいて、こうして人というものを見ることもなく暮らしていて、いまに私が死んだら、私の死後にお前はどうすることもできない、だから、

29 na siknu=an wa án=an hi ta, aynuhunara e=ki p ne na, (sek) nisatta anak (ki p) ki p ne na.

29 まだ私が生きているうちに、人さがしをしなさい。明日はするんだよ。

30 e=hosipi pakno a=e kuni p (e) e=supa wa i=sam e=omare wa e=anu yakne, eun iperusuy=an kor, a=uk wa a=e kor a=e=tére kusu ne ruwe ne na,

30 お前が帰って来るまで私が食べるものを、お前が煮て私のそばに置いておいてくれれば、私はおなかがすいたら、そこからとって食べて待っているからね。

31 nisatta, aynuhunara kusu, e=apkas easirki p ne na"

31 明日、人さがしに出かけなければいけないよ」

32 sekor, a=kor ekasi hawean kor, (a, a) apkas=an kuni uske i=epakasnu.

32 とおじいさんは言って、歩くべきところを教えてくれました。

33 "a=kor pet pet turasi e=arpa ayne, ruyno petetok karanke (e) e=arpa kor,

33 「この村の川をさかのぼって行って、ずうっと川の水源近くまで行くと、

34 teeta kane apkas=an hi ta, (nir) nítoppatoppa nítawkitawki=an wa, ne wa an pe a=esíruwante kor apkas=an wa,

34 昔むかし私が通ったときに、木に切り傷をつけたり打ち傷をつけたりして、それを目じるしにして歩いて、

35 i=armoysam ta inne kotan,

35 山の向こう側に大きな村があり、

27　**síno kemapase** シノ ケマパセ 〈本当に足が重くなった〉=〈すっかり足腰が弱った〉。16では、外に出歩く仕事はできなくなっても、まだ家の中のことはいくらかできていたが、いまは、それもできなくなった。

30　**eun** エウン 〈そこへ〉。eun uk エウヌ ウク〈そこへ取る〉とは、〈そこから取る〉こと。

33　**a=kor pet** アコル ペト 直訳すると〈私たちの川〉。自分たちがいつも利用している川。

34-1 **nítoppatoppa** ニトッパトッパ 〈木を(刃物で)何回も切りつけて刻みをつける〉。toppatoppa トッパトッパ は toppa トッパ の重複形。(福満W, S)は tokpa トクパ, (重複形 tokpatokpa トクパトクパ) と言っていた。『音声資料5』(二風谷ＫＣ子守歌)：tokpatokpa トクパトクパ 〈(化け物鳥がくちばしで)つつく〉。k が次の子音 p に同化した toppa トッパ の形は、まつ子さん個人のくせか、それとも小地域の方言か、不明である。人称接辞 =an アン がついてない。次の語のあとの =an アン が、この２語全体についている。２語が臨時に１語になっていると見てもよい。

34-2 **nítawkitawki** ニタウキタウキ 〈木を(刃物で)何回も切りつけて切る〉。tawki タウキ は〈刃物でたたいて切る〉。この場合は、切り傷をつけたことを言っている。『音声資料5』(二風谷ＨＣ神謡)：nisukotawki ニスコタウキ 〈臼に入れて鎌で突く〉。☞57, 57 tawki, 82 tawki, 84 tawki

kotan esapane kur etakasure kewtumu pirka kur an pe ne.

そこの村おさ(村長)として格別に心根のよい人がいるのだ。

36 póutari ka matnepoho ka oka wa, kewtumu pirka utar ne pa p ne kusu, pewre=an híne, pikan=an híne anakne a=kosínewe ka ki, i=kosinewe ka ki p ne a p,

36 息子さんたちも娘さんもいて、みんな気だてのいい人たちなので、私は若くて元気だったときは、遊びに行ったり、向こうから遊びに来たりしたものだったが、

37 (Toka) Tokapci wa a=kotánuhu (topap, to) topattumi koyan híne, (a, a) a=utárihi opitta a=i=kókerkeri.

37 十勝から私の村にトパットゥミ(夜襲の群)が来て、私の村人はみんな、殺されてしまった。

38 yakka, (ko) cise póka hoppa pa wa i=korpare yakun pirka korka,

38 それでも、家だけでも残して行ってくれればよかったけれども、

39 (a) a=utárihi, makan ne kusu sermaka a=nonnoytak pa p ne kusu eposokane, sine okkaypo póka kimun hene ki ka somo ki no,

39 私の村人は、どうしたのか、みんな、のろいをかけられたので、やはり、一人の若者も山へ行きもしないで、

40 asinuma sinen a=ne (i) iwor or ta, kucacise or ta rewsi=an wa án=an a p, earkinne a=utárihi a=epótara.

40 私一人だけが、山で狩小屋に泊まっていたが、ひどく村人のことが心配になった。

41 a=poutari ka okay pe ne rok pe, a=poutari, i=os arki pa kuni pekor yaynu=an kor hoski kuca or ta arpa=an wa án=an ruwe ne a p

41 息子たちもいたのだったが、息子たちが私のあとから来るかと思って、私が先に狩小屋に行っていたのだったが、

42 i=os a=poutari ka paye pa ka somo ki p ora, earkinne (a) a=kotánuhu a=epótara.

42 あとから息子たちは行かなかった。それで私はとても村のことが心配になった。

43 a=utári a=epótara (wa) wenruy wenruy hikusu, (usi) sir-

43 村人のことが心配で心配でたまらないので、真夜中になって、私は山の

37-1 **topattumi** トパットゥミ 《夜襲、夜討ち、群盗》。昔あったと言われる。集団でやって来て、山に隠れていて、夜になってから、村を上(かみ)と下(しも)から二手に分かれて襲い、皆殺しにして村を焼き払い、財宝を奪って行く。沙流地域へは、釧路、十勝、石狩、湧別などから来たと、言い伝えられている。語構成は [topat-tumi (?)・戦い]。topat トパッ の語源は不明だが、topa トパ は《(獣などの)群》。しかし、次の語源説は傾聴に値する。『久辞典稿』:「topari 忍びによる、忍びの術」、「topat-tumi 忍びの戦... >topar-tumi」。「>」は「<」の誤りと思われる。topar, topari は未出。

37-2 **koyan** コヤン 直訳すると《村に上陸してきた》。川を下って来たのだろう。

37-3 **a=i=kókerkeri** アイコケレケリ 《私の ... がかきさらわれた》=《私の(村人たちが)一掃された(皆殺しにされた)》、つまり私は村人をみんな殺されて失ってしまった。ko- は、この場合《...の》、所有者を指し示す。

39-1 **makan ne kusu** マカン ネ クス 《どうしたのか》。この makan マカン のアクセントは mákan とはちがい、第二音節が高い。(ペナコリUT):《どうしたらいいかわかんないで》、「mak an pe kusu マカン ペ クス なら、《なにしたんだかわかんないけど》。(千歳SN):makan ne kusu マカン ネ クス は「ここらの言葉でない」、「makanak ne kusu マカナク ネ クス なら、「《どういうことだべ》という意味に当たる」。

39-2 **sermaka nonnoytak** セルマカ ノンノイタク 《...の背後の(守り神)・に祈りをかける》。「民話(1)」では、《無事を祈る》という文脈で使われているが、ここでは、《のろいをかける》ことを言っている。『萱野辞典』:「セレマクカシ アコノンノイタク 不運を念じる」。

39-3 **kimun** キムン ☞民話(1) 21

40 **kucacise** クチャチセ [kuca-cise 狩小屋・家]《狩小屋、猟小屋》。山に滞在して狩猟をするために泊まる小屋。

42 **paye** パイェ 家で話しているから paye パイェ《行く》を使っている。41では、山にいたときの状況を想定して話しているので arki アルキ《来る》を使っている。

(an, a)annoski (i) kor, kuca or wa sán=an.

狩小屋から村の方へおりて来た。

44 pas kane terke kane, homar cúpipor an pe ne kus, pas kane terke kane sán=an ayne,

44 一目散に走って、おぼろに月影もあったので、ひた走りに走って下ってきて、

45 a=kotánuhu karanke sán=an akusu hinak wa a=kotánuhu a=nuyéotke híne uhuy wa (pa) pasrototke kor an siri a=nukár hi anakne topattumi (e) ek wa ne kuni a=ramú p ora,

45 村の近くまで来ると、どこからか村に火がつけられて、パチパチ燃えているのが見えた。これはトパットゥミ(夜襲の群)が来たのだなと私は思った。

46 sinen a=ne póka, (a) a=sikúnnukare pa hi ka etoranne.

46 私一人だけでも彼らに姿を見られるのはいやだ。

47 hikusu ora yaykunnuyna=an wa, tosir corpok ta, yaykunnuyna=an wa sirkamu=an wa án=an ayne, sirpeker.

47 だから私は隠れて、沢の土手の下に隠れて、腹ばいになっていると、しばらくして夜が明けた。

48 sir-pekenno hi a=eráman hi ora easir a=kotánu ta sán=an akusu, a=kotánuhu, sine cise póka isam no opitta uhuyka pa.

48 すっかり明るくなったのがわかってから、村に下って来てみると、村は、一軒の家も残さずに、みんな彼らが燃やしてしまい、

49 inne utar, ruwehe sir-(ci)cininanina wa, hosippa wa isam okake ta, a=uníhi ne a p oro ta ék=an akusu,

49 大勢の人々の足跡がビッシリついて、帰って行ったあとだった。そのあとに、私の家だったところに来てみると、

50 a=kor, (nusa,) nusa hokus wa an híne ora, ne nusa (ha) corpok un, kikir rek haw néno kane, nep ka haw a=nu hikusu,

50 祭壇が倒れていて、その祭壇の下の方から、虫が鳴く声のように、何か声が聞こえたので、

51 "ikan?" sekor yaynu=an wa sir-puspusu=an híne inkar=an

51 「もしや？」と思って祭壇を起こして見てみると、

43　**kuca** クチャ　《狩小屋、猟小屋》(＝kucacise)。☞40

44　**pas kane terke kane** パシ カネ テルケ カネ　直訳すると《走って跳んで》。長い道を一生懸命にどんどん走って行くことを表現する慣用句。(福満W)、(二風谷HC)は、pas パシ も terke テルケ も人称形にして、pas=an kane terke=an kane パサン カネ テルケアン カネ(または逆の順序、いずれも不定人称形、引用中の自称《私は…》)のように使っていた(『音声資料2, 5』)が、(語り手KM)はいつも、はだかの形(無人称形)で言っている。

45　**topattumi** トパットゥミ　☞37-1

46　**sikunnukare** シクンヌカレ　[si-kur-nukar-e 自分(の)・姿・を見る・させる]《人に姿を見せる/見られる》。この語の含まれている部分の言いたいことは、《せめて自分ひとりだけでも姿を隠していたかった》。

47　**tosir corpok ta** トシッ チョルポク タ　tosir トシッ は、(福満W, S)の発音では tósir トシッ(トが高い)だが、(語り手KM)の発音ではアクセント不明。川縁の土手が流れでえぐられて崖下のようになっているところを言う。

49　**sir-cininanina** シッチニナニナ　[sir-ci-nina-nina あたり・(中相)…された・…をこねる・重複] 直訳すると《あたりがコチャコチャにこねられた》だが、cininanina チニナニナ は、(福満S)：《(跡が)ビッシリついている》。sir- シッ が主語の位置に入って、完全動詞の形だが、ここでは自動詞のように使われている。次の文献でも同様。『萱野辞典』：「シッチニナニナ　あたりをこちゃこちゃにする」。しかしその用例の中では、「(足跡が)こちゃこちゃあった」、「あたり一面にこちゃこちゃとあって」と訳されており、これは(語り手KM)や(福満S)の用法と合う。

51-1　**ikan** イカン　☞「民話(1)」29-2

51-2　**sir-puspusu** シルプスプス　直訳すると《土またはあたりをかきわけて掘り出す》。ここでは、(語り手KM)：《祭壇を起こして》。祭壇の下に隠されていた赤ん坊を(おおっている祭壇をどけて)取り出したことを言っている。puspusu プスプス は、67, 86にも出てくる。

akusu,

52 iwatarap e=ne wa, (e) e=unuhu e=nusa(koho)kohokuste, ekohopi a=rayke wa isam hi ne aan.

52 乳飲み子のお前を、母親が祭壇を倒してその下に隠し、まもなく殺されてしまったのだったらしい。

53 wa asinuma ka sinen a=ne án=an wa ne yakun, nani a=utári kasi a=yayóraye kunak a=ramú kor, án=an a p (e) e=an wa a=e=pá hi ora konto,

53 私も一人でいるのだったら、すぐ一族を追って死のうと思っていたが、お前がいるのを見つけてからは、

54 nen póka a=kar wa e=siknu yakne, menoko e=ne yakka, a=santekehe situri pe, (e) asinuma ka ráy=an yakun eani ka, eposoun iwatarap e=ne wa e=an pe ne kusu e=ray,

54 なんとかして、お前が生きたら、女であっても、わが子孫の系統が続くが、私も死んでしまったら、お前も当然、乳飲み子であるから死んでしまう。

55 yakun earkinne (a, a=ramacihi, a, a, a, nani) i=okake ramatsak kuni, kip a=niwkes kusu, kunne hene tókap hene a=utárihi (a, ao) a=oskur a=poutari a=oskur kusu cis patek a=ki kor,

55 そうしたら、まったく、(私の魂)私のいなくなったあと、系統が途絶えてしまうのが、私は...(?)、夜も昼も一族を惜しみ、息子たちを惜しんで、いつもいつも泣きながら、

56 tan uske ta pon cise a=kar wa, a=e=résu póka eyaykoram-petetne kor tane pakno, ukoyayeramusitne=an kor oka=an ayne tane pak e=poro ruwe ne kusu,

56 ここに小屋を作って、苦労してお前を育てながら、いままでお前と二人で苦しみながら暮らしてきたが、お前はもうこんなに大きくなったのだから、

57 huskotoy wa apkas=an uske ta, nítawkitawki=an uskehe yayutapke yakka, huskono

57 ずうっと昔から、私が行き来したところは、木に打ち傷をつけたところが、傷がふさがってこぶになっていて

52-1 **nusakohokuste** ヌサコホクシテ 〈ヌサ(祭壇)を…に向けて倒す〉とは、一族がもう絶体絶命というときに、神々に守護を願って(赤ん坊)を地面に置き、その上に祭壇を倒すことを言う。『音声資料2』で(福満W)は nusa kohokuste ヌサ コホクシテ とも nusa kohorakte ヌサ コホラクテ とも言い、いずれも2語にして言っている。

52-2 **ekohopi** エコホピ 単独では【他動】〈…から分かれる/別れる〉、【後副】〈…から分かれて〉。ここの場合は〈そこから立ち去って〉か。しかし「民話(1)」141で、(語り手KM)は、ekohopi…ray エコホピ…ライ を〈まもなく…死んだ〉と訳している。ここでも〈まもなく殺された〉か。☞民話(1) 141

55-1 **a=ramacihi** アラマチヒ 〈私の魂〉と言いかけたが、すぐあとの言葉でわかるように、系統のことを言っている。

55-2 **ramatsak** ラマトサク 直訳すると〈魂がなくなる〉だが、(語り手KM):〈系統がなくなる〉。『金虎杖丸』6612行目:「ramatchak 後胤が途絶える」。

55-3 **kip niwkes** キプ ニウケシ 【連他動】(福満S):〈(人)を(死から/危難から)救う〉。これに yay- ヤイ〈自分〉の接頭した yaykipniwkes ヤイキプニウケシ は(福満S):〈いのちを惜しく思う〉。『萱野辞典』の キプニューケシ、ヤイキプニューケシ でもほぼ同様。niwkes ニウケシ は(福満W, S):〈…しきれない、…したくても果たすことができない〉。『萱野辞典』:「ニューケシ できない」。『バ辞典』の記述の中に「為スヲ好マス *To dislike to do a thing*」がある。 kip キプ は [<ki-p する・こと] と解釈できるかどうか。kip キプ〈額の生えぎわ〉との関係は考えにくい。 kipniwkes キプニウケシ の中核的意味は、《…を惜しむ、…を死滅/消滅させるに忍びない》というようなことだろうか。動詞句+kuni クニ の後に置かれた用例は初出。

56-1 **eyaykoram-petetne** エヤイコラムペテトネ (福満W)はこれと同じく eyaykoram-petetne エヤイコラムペテトネ と発音し、(福満S)は eyaykoramu-petetne エヤイコラムペテトネ と発音している。二人とも、あとに kor コロ ではなく kane カネ を置いている。いずれの場合も、resu póka レス ポカ または respa póka レスパ ポカ のあとに置かれて、子どもを育てるのにいろいろと苦労することを表現する。

56-2 **ukoyayeramusitne** ウコヤイェラムシトネ [uko-yayeramusitne 一緒に・苦しむ]〈一緒に苦しむ〉。☞189 yayeramu ka sitne, 民話(1)19

57 **yayutapke** ヤユタプケ [yay-utapke 自分・を修繕する] 切り傷をつけられたところが自然に皮をかぶって直ることを言っている。(語り手KM):「立木はもちろん自分で薄皮でもかぶっているから」。

a=tawki uskehe a=eráman pe ne na,

も、古く傷つけたところはわかるのだから、

58 ne uske e=eraman no, (o, nano) harkisam wa sítu turasi e=hemesu. sítu ka ta e=hemesu yakne,

58 お前はそこをわかって、左側から尾根づたいにのぼるんだ。尾根の上にのぼったら、

59 rituruorewsi somo an no itto apkas eaykap, sittuyma wa i=armoysam kotan or un, sittuyma p ne kusu, apkas=an kor, rituruorewsi=an.

59 道中泊まらずに一日で行くことはできない、遠くて、山向こうの村までは遠いので、行き来するときは途中で泊まる。

60 oro ta rewsi=an kuni uske ta, (poro) pon yatcise a=kar wa, oro ta rewsi=an, wa, i=armoysam un arpa=an, hosipi=an kor suy rewsi=an wa ék=an ranke.

60 その泊まるところに、私は小さい木の皮の家を作って、そこに泊まって山向こうの村へ行った。帰るときもまた、泊まって来たものだった。

61 i=armoysam un nispa i=kosinewe kor oro ta rewsi wa ek, rewsi wa hosipi ranke.

61 山向こうの村の長者がこちらへ訪ねて来るときも、そこに泊まって来、泊まって帰ったものだった。

62 ora pirka pon nay an wa a=owákkaku pon nay an pe ne wa,

62 そして、よい小さい沢があって、水を飲む小さい沢があって、

63 pirkano nay ruwor ka a=kar wa, inawroski=an ne ya, (ce) céhorkakep ne yakka a=roski wa,

63 私は沢の流れもきれいにして、イナウを立てたり、また逆削りイナウも立てて、

64 wakkauskamuy a=sikáopiwkire hi a=ye kor rewsi=an hi a=ye kor a=se a haru, ponno ne (ne yak) yakka nay or ta a=carpa ne ya néun néun iki=an kor, rewsi=an pe ne a p

64 水の神に助けてくれるようにという願いを言い、また、泊まりますということを言いながら、持って行った食糧を少しだけれども沢にまいたり、いろいろして、泊まったのであったが、

65 (oya) néa cise, yaruhu

65 その家が、屋根や壁を葺(ふ)いた

58　**yakne** ヤクネ　〈…すると、…したら〉。この条件文のあとの帰結文はない。話がどんどん曲がりながら続いていく。

59-1 **rituruorewsi** リトゥルオレウシ　【自動】[ritu-ru-o-rewsi (?)・道・で・泊まる]《語り手KM》:〈途中泊まり〉。〈(遠いところに行くときに)途中で泊まる〉。ここから主語が変わる。「遠くてその日のうちには着けない」という一般的な話になったと思うとすぐに、おじいさん自身が昔行き来した話になっていく。

59-2 **sittuyma** シットゥイマ　【完動】[sir-tuyma 地が・遠い]〈道のりが遠い〉。

60　**yatcise** ヤッチセ　[yar-cise 樹皮・家]〈屋根や壁を木の皮で葺いた家〉。『萱野辞典』:「ヤッチセ　木の皮で葺いた家:ランコ(カツラ)の木の皮を使う」。yar ヤッは〈木の皮〉。《語り手KM》:「7センチも厚みがある、5尺か6尺(150〜180センチ)に切る」。『知分類植』p. 287:「yar (-i) ((北)) 剥ぎとった樹皮。屋根や壁を葺いたり、敷物にしたり、舟をはいだりするために剥ぎ取った樹皮を云い、エゾマツ・トドマツ・キワダ等、コルク質の厚い樹皮が普通用いられた。<yar (裂片)。」そこでは所属形語尾の母音は -i と記されているが、《語り手KM》の言葉では u で、すぐあとの65-1で yaruhu ヤルフ〈その樹皮の部分〉と言っている。『萱野辞典』:「ヤッ　木の皮:狩小屋を建てる時、屋根とか囲いに使えるぐらいの広さや長さのあるものをいう」。

62　**owakkaku** オワッカク　[o-wakka-ku (そこ)から・水・を飲む]

63-1 **nay ruwor** ナイ ルウォロ　沢の中で水の流れているところ(福満S)。ruwor ルウォロは [ru-w-or 筋/道・のところ]

63-2 **inawroski** イナウロシキ　[inaw-roski イナウ(木幣)・を立てる[複]] inaw〈イナウ、木幣〉は、木を削って削り花がフサフサとなるように作った御幣。神への贈り物。それを地面にさして立てた。

63-3 **céhorkakep** チェホルカケプ　[c-e-horka-ke-p (中相)…された・その頭・逆方向に・削る・もの]〈逆削りイナウ〉。イナウ(木幣)の一種。他の種類のイナウは、根元のほうから削っていくので、削り花が下向きに下がるが、この種類は、先の方から逆向きに削るので、削り花が逆向きに、逆立つような形になる。あまり重要でない神へのイナウだとのこと。

64-1 **haru** ハル　〈(自然からもらう収穫としての)食糧〉。獲物の肉でも、魚や、木の実や草の根などでも、畑の収穫物でも。

64-2 **carpa** チャルパ　【他動】〈…を撒(ま)く〉、ここでは、〈(先祖や神に捧げる供えもの)をまく〉。食べ物や飲み物、タバコなどを、供物として供えることで、パラパラとまくのが、供物の供え方である。自動詞は icarpa イチャルパ〈ものをまく〉=〈供物まきをする〉。

65-1 **yaruhu** ヤルフ　発音が鮮明でなく、yarho ヤルホのように聞こえるが、《語り手KM》によれば yaruhu ヤルフ〈その樹皮〉。86でははっきり yaruhu ヤルフと発音している。
☞60

horarayse yakka niyehe roski wa oka nankor kusu,

木の皮がすべりおちても、骨組の木が立っているだろうから、

66 túnasno e=sirepa nankor, menoko e=ne yakka, okkayo ekasure (e) e=nitan kusu túnasno e=sirepa nankor kusu

66 お前は早く着くだろう、女であっても、男以上に足が早いから、早く着くだろうから、

67 ne (yar u) yar utar e=puspusu wa,

67 木の皮を掘り起こして、

68 úse hotke anak somo an pe ne na,

68 野天に寝てはだめだからね、

69 néun póka sinep tup póka cisekitay or un e=anu, cisetumam e=kar mawtum póka ki wa cise onnay e=casnure wa ora ne nay, a=owákkaku nay (oy) ne yakka, hankeno nay ruwor ka e=casnure. ora

69 何とかして、一つ二つでも屋根にのせ、壁も作るまねだけでもして、家の中をきれいにして、沢、水を飲む沢も、近い沢の流れもきれいにして、それから、

70 'tapne tapne, a=kor ekasi i=utek wa, i=armoysam un apkas kuni p a=ne ruwe ne.

70 「こうこういうわけで、私はおじいさんの使いで山向こうの村へ行くのです。

71 menoko a=ne yakka, wakkauskamuy, kamuy katkemat i=epunkine wa apunno rewsi a=ki wa apunno apkas a=ki kusu ne ruwe ne na'

71 女ではありますが、水の女神様が私をお守りくださって、無事に泊まり、無事に行くことができますように」

72 sekor e=hawean kor, e=se haru, (ponno po) ponno ponno ne yakka nay or ta ka e=carpa, cise piskan péka ka e=carpa kor

72 と言いながら、持って行った食糧を、ほんの少しでも沢にもまき、家のまわりにもまきながら、

73 kamuy ne manu p e=sisermak-(u)uste kuni, apunno

73 神様に、お前を守ってもらうよう、無事に泊まるようにと、一人ごと

65-2 **niyehe roski** ニイェヘ ロシキ 〈木の部分は立っている〉。(語り手KM)：「ikuspe イクスペ〈柱〉は立っている」。

66 **túnasno ... kusu** トゥナシノ ... クス 挿入句。

67 **puspusu** プスプス pusu は埋まって/沈んでいるものを掘り出して/引き上げて、見えるところへ掘り出す/取り出すことを言う。これはその重複形。〈...を掘り出す〉。(語り手 KM)：「もう落ちてしまって、その上に毎年の木の葉が落ちてかぶさったり、草がのびたのが秋になって倒れてかぶさったりしているのを、そこから掘り起こすこと」。なお、説明の中では、同じことを puspapuspa プスパプスパとも言った。☞51-2 sirpuspusu シリプスプス, 86

68 **úse hotke** ウセ ホトケ [それだけで・寝る]〈野天に寝る〉。somo an pe ne na ソモ アン ペ ネ ナは〈(一般に) ...するものではない、してはならないものだ〉。67は69へと続いていく言葉で、この68の部分は挿入句。

69-1 **mawtum** マウトゥム mawtum ki マウトゥム キは〈...する/しているようなまね/格好だけはする〉。ここで言いたいことは、〈(ちゃんとした家をつくることはもちろんできないが) 曲がりなりにも壁をつくるまねだけでもして、形ばかりの家でもいいから中に寝るように...〉。(福満S)は前の動詞(この場合 kar カラ)だけでなくあとの ki キ〈する〉も人称形にして使い、ku=nitan mawtum ku=ki wa k=ek クニタン マウトゥム クキ ワ ケク〈私は速く走るような格好だけはして来た(ほんとうはちっとも速くないが)〉のように言っていた。

69-2 **hankeno** ハンケノ [hanke-no 近い・(副詞形成)]〈近く〉=〈近いところに/で/へ〉。この場合は近くの沢を掃除したことを言っている。

69-3 **nay ruwor** ナイ ルウォロ ☞63-1

70 **a=kor ekasi i=utek wa** アコレカシ イユテク ワ 直訳すると〈私のおじいさんが私を使いに出して〉。

71 **apunno ... ruwe ne na** アプンノ ... ルウェ ネ ナ 直訳すると〈... 無事に歩く(=行く)のですからね〉。

73-1 **sisermak-uste** シセルマクウシテ 後に語り手まつ子さんに質問したときには、sisermakkuste シセルマックシテ だと言った。しかし、ここでは sisermak'uste シセルマクウシテ と発音している。[si-sermak-us-te 自分・の背後の守り・につく・させる]、つまり〈(神に)自分を守ってもらう、助けてもらう〉。(ペナコリUT)：sisermakuste シセルマクシテ。(福満S会話)：同。

e=rewsi kuni, e=yaykoytak kor (u) e=rewsi wa, (u) isimne (e) e=arpa yakun, túnasno ne i=armoysam un kotan or ta e=sirepa p ne na,

を言いながら、泊まって、次の日に、出かけたならば、早くその山向こうの村に着くのだよ。

74 kotankorkur, (u) soykehe ta e=arpa wa, (noise) e=(simusim, si)simusiska yakun, aynu soyne nankor na,

74 村おさの家の門口に行って、咳払いをすれば、人が出て来るだろうから、

75 'tapne, a=kor ekasi hawean wa, i=apkaste wa apkas=an pe ne ruwe ne na'

75 「こうこういうふうに、私のおじいさんに言われて、私はよこされて来たのです」

76 sekor e=hawean yakun, etakasure kewtumu pirka, onnekur utar ka póutari ka ne rok kusu onnekur utar nen ka ne wa onne wa isam pa yakka póutari oka nankor kusu,

76 と言えば、年寄りたちも、その息子たちも、格別に心根のよい人たちだったから、年寄りたちが、ひょっとして死んでしまっていても、息子さんたちがいるだろうから、

77 e=sikaopiwkire yak ikan aynu e=pa siri a=nukár wa onne=an pe ne ruwe ne na, néno é=iki. menoko e=ne yakka, e=arikiki p ne na"

77 助けを求めれば、お前が人を見つけたのを私は見てから死ぬことができるのではないかと思うから、そのようにしなさい。女であっても、しっかりやるんだよ」

78 sekor a=kor ekasi hawean kor apkas=an kuni uske i=epakasnu a i=epakasnu a kor, rewsioka=an.

78 とおじいさんは言って、私が行くところをよくよく教えてくれました。そうして一晩過ごしました。

79 ora nókunneywano hopuni=an a p ora su sikteno suke=an híne sama a=omáre. itanki ne yakka, (u, u) uk easkay kunine sama ta a=anú.

79 それから、私はまだ暗いうちに起きて、鍋いっぱいに料理をつくって、おじいさんのそばに置きました。おわんも取れるように、そばに置いてあげました。

80 oraun rituruorewsi=an hi ta, a=supa kuni p, (ha) haru a=se, pon

80 それから途中で泊まるときに調理する食糧を背負いました。小さい鍋な

73-2 **yaykoytak** ヤイコイタク [yay-ko-itak 自分・に・話す]《ひとりごとを言う》。男のようにカムイノミをするわけにいかないので、神に聞こえるようにひとりごとを言う。100では pawetenke と言っている。

74 **simusiska** シムシシカ [si-musis-ka 自分・むせる・(他動詞化)] 直訳すると《むせているようにする》=《(訪問先の家の門口で)家の中の人に来たことを知らせる合図として咳ばらいする》。

75 **i=apkaste wa ... ruwe ne na** イヤプカシテ ワ ... ルウェ ネ ナ 直訳すると《(おじいさんが)私を歩かせて私は歩いたのですから》。

76-1 **etakasure ... ne rok kusu** エタカスレ ... ネ ロク クス 直訳すると《格別に心根のよい老人たちと息子たちだったから》。
76-2 **nen** ネン néun の縮まった形、《どのように(か)、どのように(も)》。

77-1 **ikan** イカン 《(ひょっとして) ...するのではないだろうか》。(二風谷NK) : ikaanun...na イカアヌン...ナ (『音声資料2』)、(福満W) : ikiyaun...wa イキヤウン...ワ (『同1』)。
77-2 **é=iki** エイキ 発音は eyki。

79 **sikteno** シクテノ 【後副】《...を満たすように、...いっぱいに》。第一音節が、アクセント核のある強い音節であるにもかかわらず、i が無声化している。

80-1 **rituruorewsi** リトゥルオレウシ ritur-orewsi リトゥルオレウシのように聞こえるが、語り手に確認した。59では rituruorewsi リトゥルオレウシ と発音している。☞59-1
80-2 **a=supa** アスパ 第二音節は強い音節であるにもかかわらず、u が無声化している。
80-3 **haru** ハル ☞64-1

su ne ya, a=eyáyramekote (k, u) kuni p, pon sikehe a=kar híne a=se híne,

ど、泊まるところで使うものを小さな荷物にして背負って、

81 a=kor kuwa (ay) a=esísuyesisuye kor, (nay turasi pas) nay turasi pet turasi pas kane terke kane, arpa=an ayne

81 杖を振り振り、沢づたいに、また川づたいに、どんどん走って行きました。しばらく行くと、

82 sonno ka, petetok karanke arpa=an kor, (nay) pet nutap ka ta, síporo cikuni teeta kane huskono kane (e) a=tawkitawki p ne (a) aan pe,

82 言われていたとおり、川の水源近くまで行ったとき、川端に、とても大きな木、ずっと昔に打ち傷をつけられたらしいのが、

83 yayutapke okakehe ne korka, an wa a=nukár hikusu,

83 もう直って皮がかぶさっていましたが、そういう木があるのが見えましたので、

84 ne wa an pe a=ekírkar híne, (o) orowano, (sítu ka) sítu turasi hemesu=an kor, hankeno hankeno, néno, a=tawki cikuni yayutapke wa oka ruwe, (te) te péka a=kor ekasi apkas aan okakehe ne kuni a=ramú kor, hemesu=an wa,

84 それを目じるしにして、それから尾根づたいに登って行くと、あまり間が離れずに次々に、同じように打ち傷をつけられた木が、もう直って皮をかぶっているのがありましたので、それを私は、ここをおじいさんが歩いたあとなのだなあと思いながら、登って行き、

85 sítu ka ta hemesu=an akusu sonno ka, yatcise (aan pe) ne aan pe, yaruhu ka horarayse, wa, kitaykehe yaruhu anak horarayse korka tumamaha anakne roski hi néno oka wa, oka hikusu

85 尾根の上まで登りました。すると、聞いていたとおり、木の皮の家だったらしいものが、木の皮がすべり落ち、屋根の木の皮はすべり落ちてしまっていましたが、壁は立ったままで、ありましたので、

86 ne yárutar a=puspusu wa, cisekitay un (a, a, a) a=(ri)rikomare, wa cisekitay a=kar.

86 その木の皮を地面から掘り起こして屋根に上げ、屋根を作りました。

80-4 **a=eyáyramekote kuni p** アエヤイラメコテ クニプ 《語り手KM》:《鍋や手まさかり(ponmukar ポンムカラ) など、途中で泊まるときに使うもの》。a=yayramekote アヤイラメコテ のように聞こえるが、後日語り手に確認したところ a=e=yáyramekote アエヤイラメコテ だとのことである。306の yayeramkote ヤイェラムコテ《結婚する》は、この語と関係がありそうに思われる。yayeramkote ヤイェラメコテ が《所帯を持つ》、それに e- がついた eyayeramekote エヤイェラメコテ《…で所帯を持つ》の yay- ヤイ のあとの e- エ が脱落したものか。そうだとすれば、a=eyáyramekote kuni p アエヤイラメコテ クニプ は《…で所帯をもつべきもの》すなわち所帯道具か。

81 **pas kane terke kane** パシ カネ テルケ カネ ☞44

82-1 **pet nutap** ペト ヌタプ nay ナイ と言っているが、語り手が pet ペト と訂正した。pet nutap ペト ヌタプ は《ペナコリUT》:《川原の、石のない、畑でも何にでもなるような泥(どろ)っぽいところ》。

82-2 **teeta kane huskono kane** テエタ カネ フスコノ カネ 直訳すると《昔に古くに》。

83 **an wa a=nukár** アヌ ワ アヌカラ 直訳すると《あって私はそれを見た》=《あるのが見えた》。☞民話(1) 8-2

84-1 **ekirkar** エキリカラ [e-kir-kar …で・…を見てわかる・…する]《(それ)によってああこれだなとわかる、目印にする》。

84-2 **hankeno hankeno** ハンケノ ハンケノ 直訳すると《近く近くに》。

84-3 **apkas aan okakehe ne kuni** アプカス アアヌ オカケヘ ネ クニ 《…歩いたあと(残された印)なのだなということを》。

85 **yatcise** ヤッチセ 木の皮で屋根や壁を葺いた家。yar ヤラ は ☞60

86-1 **yárutar** ヤルタラ [yar-utar 木の皮・たち]《語り手KM》:「1枚や2枚でないから」。

86-2 **puspusu** プスプス ☞67

87 ora cise onnay ne yakka irammakaka a=casnure. cise okari a=casnure.

87 それから家の中もきれいに掃除し、家のまわりも掃除しました。

88 ora hoski nína=an wa rewsiapekor=an yakka,

88 そして、先にたきぎをとって来て、火もたいてありましたけれども、

89 a=esírkirap somo ki pakno tu suy re suy, sat cikuni pirka wa hankeno okay pe ne kusu, (a) a=uwékarpare híne a=anú.

89 あとで困らないほどに、二回も三回も、よい乾いた木が近くにあったので、集めておきました。

90 cise onnay ta ka cikuni a=ahúnke, sine ancikar, rewsi=an yakun, anepitta apekor=an yakka pirka pakno, cise onnay un ka cikuni a=ahúnke, soy ta ka a=anú

90 家の中にもたきぎを入れました。一晩泊まったとき、夜どおし火をたいていても大丈夫なくらい、家の中にもたきぎを入れ、外にも置きました。

91 híne ora, nay or ta rán=an akusu sonno ka husko céhorkakep ekayni takupi, ne korka ramma as wa an, hike a=uk wa (m), ora hankeno nay ruwor a=casnure kor,

91 それから沢に下りますと、聞いていたとおり、古い逆削りイナウが、削り花はとれてしまって棒の部分だけになっていましたけれど、まだ立っていました。私はそれを取って、近くの沢の流れをきれいにしながら、

92 "naykorkamuy, (e) tapne, menoko a=ne wa, ekasi siresure p a=ne wa án=an, pe a=kor ekasi síno, tane kemapase kaspa híne, i=armoysam un kotan or un, i=apkaste wa apkas menoko a=ne yakka,

92 「沢の神様、実はこうこういうわけで、私はおじいさんに育てられた女ですが、おじいさんは、もうすっかり年取って弱ってしまって、私が山向こうの村へ行くように言われて行くところなのですが、

93 apunno kamuy mintar, (min, min) mintar or ta rewsi=an kusu ne na, i=epunkine wa i=kore yak pirka na"

93 無事に神様の庭の中で泊まらなければなりませんから、私を守ってくださいますように」

94 sekor hawean=an kor

94 と言いながら、水を汲んで来まし

88　**rewsiapekor** レウシアペコロ　[rewsi-ape-kor 泊まる・火・を持つ] 初出。《泊まるための(一晩じゅうの)火をたく》か。apekor アペコロ は《火を持つ＝火をたいている》。rewsiape レウシアペ という語があるかどうかも不明。先行文献にも見当たらない。

91-1 **céhorkakep** チェホルカケプ　☞63-2

91-2 **ekayni takupi** エカイニ タクピ　ekayni エカイニ は《頭の折れた木》、つまり、折れ木や切り株をよく言うが、ここでは、逆削りイナウの、削り花の部分が取れて落ち、棒の部分だけが残ったものを言っている。takup タクプ《(それ)だけしか》。所属形であるから、《棒の部分だけしか(残っていない)》。

93-1 **rewsi=an kusu ne na** レウシアン クス ネ ナ　直訳すると《泊まるのだから》。

93-2 **yak pirka na** ヤク ピリカ ナ　直訳すると《... するとよいから》。命令表現の一つ。《福満W, S》は、どちらかといえば目上から目下への言いつけ・指図の文脈で使っていた。《語り手KM》は、昔話の中では目上目下に関係なく、きちんとした要求表現の言い方として非常に多く使っている。

wakkanise=an híne, ék=an

た。

95 ora suy hetopo, (ah) a=kor haru a=kor wa rán=an wa,

95 そしてまた、持って来た食糧を持って沢に下りて行き、

96 "wakkauskamuy, kamuy katkemat a=koycarpa.

96 「水の神である女神様に供物まきをします。

97 wakkauskamuy patek somo ne, nep kamuy ne yakka, kamuy utar opitta ewepe kusu, icarpa=an sir ne na.

97 水の神様だけではなく、何の神様でも、神様方みんなに食べていただくために、まいているのです。

98 iworso ka erok kamuy ne yakka, (e) sineikinne(e)no, i=kurkasi (s, i) sikomanante pa wa, i=epunkine pa wa, apunno rewsi=an kuni, i=epunkine pa wa i=korpare yak pirka na"

98 この山の中の土地におわす神様も、みんな一様に、私の上に身をまわして守っていただいて、私が無事に泊まれるように守って下さいますように」

99 sekor hawean=an kor, yayeypakasnu=an, a=rehe ka a=ye kor yayeypakasnu=an kor, icarpa=an a an a nay or ta ki híne yan=an wa ora hemesu=an híne orano,

99 と言って、私は自分のことを知らせました。私の名前も言って自分のことを知らせながら、沢に供物まきをし続けてから、岸に上がり、それから登って行って、それから

100 (a) rewsi=an kusu ne cise piskanike péka ka cise onnay péka ka, icarpa=an kor, kamuy ne manu p orosama a=pawétenke,

100 泊まる家のまわりにも、家の中にも、供物まきをしながら、神様に願いを話しました。

101 "a=kor ekasi (husḳ) husko(ro)no apkas hi ta nómi kamuy utar, iworso ka erok wa oka nankor kusu, i=epunkine pa wa i=korpare yak pirka na"

101 「私のおじいさんが昔通ったときに、おまつりした神々が、この山の中の土地におわすでしょうから、私を守ってくださいますように。」

102 sekor hawean=an kor

102 と言いながら、供物まきを続け

94　**wakkanise** ワッカニセ　【自動】[wakka-nise 水・を汲む]〈水を汲む〉。nise ニセ はひしゃくですくって汲むことを言う。wakkata ワッカタ〈水汲みする〉は、川から汲んで手にさげて来ることも、つるべ井戸から汲み上げて桶を天秤棒でかついで来ることも含めて、水汲みすること一般を言う。

96　**koycarpa** コイチャルパ　【他動】[ko-i-carpa ...に・もの・をまく]〈...に捧げものをする、...に供物をまく〉。icarpa【自動】〈供物まきをする〉に ko-〈...に〉が接頭した語。☞64-2

97-1 **ewepe** エウェペ　[<e-u-e-ipe ...で・互い・と共に・ものを食べる](?) 初出である〈(それ)を皆で食べる〉。「神々が皆で食べるように」という話をしている。

97-2 **icarpa** イチャルパ　【自動】[i-carpa もの・をまく]〈供物まきをする〉。☞64-2

98-1 **iworso** イウォルソ　[iwor-so 山の中・広がりを持ったところ]〈山の中の(狩猟や採集の)地〉。この娘はすでに山の中に来ているので、そのあたりの土地一帯を指すと思われる。so ソ は席、座、敷物の上なども指し、床や地面のように広がりのある場所を言う。☞2-1

98-2 **sineikinneno** シネイキンネノ　[sine-ikir-ne-no 一つの・集まり・として・(副詞形成)] no ノ をつけず、sineikinne シネイキンネ だけでも言う。〈皆一様に〉。

98-3 **sikomanante** シコマナンテ　[<si-ko-omanan-te 自分を・(そこ)に・歩く・させる](?) i=kurkasi sikomanante イクルカシ シコマナンテ は(語り手KM)：〈私の上に身をまわして〉。

99　**yayeypakasnu** ヤイェイパカシヌ　[yay-e-i-pakasnu 自分・について・人・を教える]〈...に自分のことを知らせる〉。

100-1 **kamuy ne manu p** カムイ ネ マヌァ　直訳すると〈神というもの〉。あぶないところを助けてくれる/くれたありがたい神を畏敬の念をもって言うときに、よく出てくる。悪い神、化け物(wenkamuy ウェンカムイ)や熊のことには言わない。

100-2 **pawetenke** パウェテンケ　[pa-w-e-tenke 口・(挿入音)・で・(?)] 初出。(語り手KM)：kamuy oro sama pawetenke〈神に願いを話す〉、「男なら kamuynomi カムイノミ〈御神酒(おみき)をあげて厳粛に取り行う神祈祷の儀式〉をするところだが、女にはそれができないので、神に聞こえるようにひとりごとを言う」。(語り手KM)は、説明の中で、kamuy kewtumu epawetenke カムイ ケウトゥム エパウェテンケ とも言っている。73では yaykoytak ヤイコイタク〈ひとりごとを言う〉が使われている。これは日常普通にひとりごとを言うことを言うのに使われる語である。『金ユ集1』p.309：「araikotenke　わたしは絶叫して、注：tenke　叫ぶ」。そうだとすると、pawetenke パウェテンケ は [口・で・叫ぶ] か。

101-1 **apkas hi ta** アァカシ タ　直訳すると〈歩いたときに〉。

101-2 **nómi** ノミ　〈...をまつる、...に御神酒をあげて供物を捧げる儀式をする〉。

101-3 **iworso** イウォルソ　☞98-1

icarpa=an a an a. (#)

103 híne ora suke=an híne ipe=an.

104 néa a=kor kuwa anakne (wa) a=sisámomare wa, ora a=kor pon sike (u) kasi, (a) sinki=an ka ki p ne kusu, kasi (a=em, a) a=omá híne, hotke=an a p, mokor ka a=etóranne.

105 rápok hemanta kosneno apapa un húmas húmas.

106 iyoyamokte=an hikusu, moymoyke=an ka somo ki no, (o) ramno kane sikmaka=an híne inkar=an akusu,

107 noskike pakno erasraske pon hekaci, ay, ku, ukoani kane híne, ahun híne, i=arsoke ta móno a.

108 hikusu, kamuy i=sermakus kusu, i=kosini, netopakehe i=nukare ka ki p, somo a=nukár ápekor án=an ka etoranne hikusu, hopuni=an híne oripak=an híne án=an akusu i=erankarap.

109 "oar sinen e=ne, e=an wa ne yakun, menoko e=ne p néun é=iki wa (e=sik) e=siknu p ne ya a=erámiskari kusu, (e, esermaka, a) a=e=kásuy kusu ék=an siri ne p ne na, ikan i=eohaysitoma pekor

ました。

103 それから食事をつくって食べました。

104 例の私の杖(つえ)は、自分のそばに置いて、私の小さい荷物の上、疲れてもいましたので、その上に乗って寝ましたが、眠る気にもなりません。

105 そのうち、何か軽く、戸口のところで音がしました。

106 へんだなあと思いましたので、動かずに、細く目を開けて見てみると、

107 頭の半分まではげた男の子が、矢と弓を一緒に持って、入って来て、私の向い側に座りました。

108 ですから、神様が私を守るために、私のところへ来て、姿まで見せてくれているのを、見ないふりをしているのはいやですから、起きてかしこまっていました。するとその人は私に挨拶しました。

109 「お前がたった一人でいたのでは、女だもの、どうやって生きられるのか私にはわからないから、お前を助けに来たのだ。恐ろしいように思うなよ。

104-1 **néa** ネア　naナと聞こえるが、語り手がnéaと訂正した。
104-2 **mokor ka etoranne** モコル カ エトランネ　直訳すると《眠るのはいやだ》。

106　**ramno kane sikmaka** ラムノ カネ シクマカ　直訳すると《低く目をあけた》。(語り手KM)：「《細く目をあけた》。家の入口の戸のカヤの簀(す)を少しだけ上げることも、ramno ラムノ《低く》あけると言う。
107-1 **noskike pakno erasraske** ノシキケ パクノ エラシラシケ　《半分まで頭がはげている》。erasraskeの発音は不鮮明になり、sとkが同時に発音され、まるでerasrakse エラシラクセのようにも聞こえるが、舌がもつれたためである。意味は《頭がはげている》。(千歳SN)：「はげのこと言うけども、epitce エピッチェとも言う、…erasraske エラシラシケはあんまりないもんの話、昔あった話、mintuci ミントゥチだけだ」。noskike pakno ノシキケ パクノ《半分まで》は、どこまでのことか、(ペナコリUT)：「わからない」。(千歳SN)：「noskike pakno erasraske ノシキケ パクノ エラシラシケってここでは言わない。sik or pakno erasraske シク オロ パクノ エラシラシケっていうことは言うけど、…それはmintuci ミントゥチだかっていうもの、…ここ(＝目から上)、こうなって皿になっているから言う言葉だなと思う」。
107-2 **ukoani** ウコアニ　《…を一緒に手に持つ》。
107-3 **arsoke** アルソケ　[ar-so-ke反対側の・座・のところ]所属形(概念形はarso アルソ)。《いろりをはさんでその人の反対側》。
108-1 **sermakus** セルマクシ　[sermak-us…の背後/陰・につく]《(神が)…の背後につく》＝《(人)を守る》。
108-2 **i=kosini** イコシニ　直訳すると《私のところに休みに来た》。この場合sini シニ《休む》は、人を訪問して家に入ることを言う。たとえば、訪問者に向かって「どうぞお上がり(お入り)ください」に相当することを言うのにも、ahun wa sini アファ ワ シニ/アフン マシニ《入って休みなさい》と言う。
109-1 **néun … ya eramiskari** ネウン…ヤ エラミシカリ　《どうやって…かわからない》＝《どうしても…しない(できない)と思う》。
109-2 **ikan … na** イカン…ナ　《…しないようにしなさいね》。ここのikan イカンの使い方は、77, 民話(1) 29,35に出てくるikan イカンと違う。(福満W, S)はikiya…na イキヤ…ナと言う。禁止ではなく、案じてやさしく注意する言葉。『萱野辞典』：「イカ《絶対～してはいけない》」。

e=yaynu na.

110 mintuci tono a=ne wa, nay or ta, án=an wa e=kor ekasi apkas kor pisno (i) i=koycarpa.

110 私はカッパの王だ。沢に住んでいて、お前のおじいさんは、この辺を通るたびに、私に供物をまいてくれた。

111 ponno ne pekor yaynu kor icarpa hikeka poro ikirihi, a=eyáykamuynere. ne wa an pe (e, a) a=koyáyirayke.

111 少しのように思ってまいても、たくさんになるので、私もそれをもらって、神の国で、神らしく暮らすことができた。そのことを私は感謝している。

112 e=kor ekasi ne yakka ki p ne kusu, apkas kor, apkas kemasut kasi a=epúnkine wa, apunno apkas e=kor ekasi ki p ne a p,

112 お前のおじいさんもそうしてくれたのだから、おじいさんが通るときには、歩く足元を私が守ってやったので、それで無事に行き来していたのだが、

113 huskotoy wano a=nukár ka eramiskari. hi néno iperusuy=an ka ki. (m)

113 ずっと前から全然見かけない。それにつれて、私はおなかもすいた。

114 a=ukóeramewnin kamuy a=ne wa, án=an pe ne kusu, ney wano án=an a katuhu eraman wa i=koycarpa siri somo ne yakka,

114 私は人に知られていない神であるから、だれかから私がいることを聞いて、私に供物まきをしてくれたというわけではないのだけれど、

115 'wakkauskamuy, eturenno oka kamuy, kamuy opitta ewepe kusu icarpa=an sir ne na'

115 「水の神様と一緒にいる神々がみんなで食べるために供物まきをしているのですよ」

116 sekor hawean kor, e=kor ekasi icarpa kor asinuma ka, haru ikirihi a=i=kóre p ne kusu, a=eyáykamuynere kor án=an pe ne ruwe ne a p, (ea)

116 と言いながら、お前のおじいさんは供物まきをする。そうすると、私にもたくさんの食糧が与えられるのだ。それで私は神の仲間としての面目をほどこすことができていたのだが、

117 huskotoy wa, ekasi apkas hi isam orano, iperusuy=an ka ki kor, án=an pe ne ruwe ne a p, e(w)=kor ekasi ene itak a hi néno e=hawean

117 ずいぶん前から、おじいさんが来なくなってから、おなかもすいていたのだったが、お前が、おじいさんが言っていたのと同じことを言いなが

109-3 **eohaysitoma** エオハイシトマ 【他動】〈…を恐れおびえる〉。ikan イカン から na ナまでの部分、直訳すると、〈私を恐れおびえないようにしなさいね〉。(語り手KM)：〈おっかないなあと思わないで〉。ohaysitoma オハイシトマ【自動】〈恐ろしい〉。☞126

110-1 **mintuci tono** ミントゥチ トノ mintuci ミントゥチ は [<日本語 みづち] で、〈かっぱ(河童)〉と言われている。小さい男の子で、頭の上半分には毛がない。この話では助けてくれる善いものとして登場している。(千歳SN)：「川の中にいるものだっていうんでしょ。深いところに。子どもでしょう。ここのところ(頭の上)が皿になって、そこに水が入っていたら力が強いんだというものがいるでしょ。それのこと」。『金全集12』p. 672：「ミンツチは化物(カミアシ)の部類」、「元は草人形、疱瘡神と闘った」、「善い事をしてくれるのもある」。『知分類人』p. 382：「聖伝 oyna」の引用で、疱瘡神と戦った草人形の神の「死霊わ化生して mintuchi(河童) の神となった」。tono トノ は、このような場合、(福満W)は〈王様〉と訳していた。〈首領〉、〈親方〉、〈殿様〉などとも訳せるが、いま〈王〉としておく。

110-2 **apkas** アップカシ 直訳すると〈歩く〉だが、どこかへ行くとか、どこかから来るとか、そのあたりで動きまわって仕事をするなどを表すのに使われる。

111 **a=koyáyirayke** アコヤイライケ 語幹は [ko-yayirayke …に・感謝する]、通常 koyayrayke コヤイライケ と発音され、ここでも a=koyáyrayke と発音されている。その場合でも i を入れて書くのは、yayrayke ヤイライケ〈自殺する〉と区別して、yayirayke ヤイライケ〈感謝する〉と関係があることを示すためである。150, 161のも同様。

112 **kemasut** ケマスト [kema-sut 足・の下端の方]。

114-1 **a=ukóeramewnin kamuy** アウコエラメウニン カムイ 『音声資料2』(福満W)：a=ukókoéramewnin kamuy アウココエラメウニン カムイ〈人に知られていない神〉。それより ko が一つ少ないが、意味はそれと同じであろう。

114-2 **ney wano** ネイ ワノ 直訳すると〈どこかから〉。〈どこかから私のいることを知って〉とは、〈どこかから聞いたか、どうしてか、私たちがいることを知って〉。

115-1 **eturenno** エトゥレンノ 【後副】[e-turen no その頭が・…と一緒にいる・(副詞形成)](?)〈…と一緒にいる〉。初出。turen トゥレン は〈…と一緒にいる、…に憑いている〉。『萱野辞典』：「エドレン と合わせて」。

115-2 **ewepe** エウェペ ☞97-1

117-1 **apkas hi isam orano** アップカシ イサム オラノ 直訳すると〈歩いたことがなくなってから〉。

kor é=icarpa p ne kusu,

118 wakkauskamuy oro wano, (a)e=carpa haru ponno ne pekor e=yaynu kor é=icarpa yakka poro ikiri kamuy or ta arpa p ne kusu ne wa an pe, a=i=ímekkore wa, a=eyáykamuynere.

119 haru kurkasi a=kosímacici, (a) situriri=an kor, inkar=an akusu,

120 Nupurikesun Puriwenkur, (a) e=apkas kuni eraman wa, e=etoko us wa,

121 e=koekimne kuni (e) ramu kor an siri a=nukár wa,

122 a=e=kóemosma wa ne yakun, néun é=iki yakka, menoko e=ne kusu, a=e=pónekonukunuku wa isam noyne, inkar=an wa kusu, e=ka a=opíwki kusu ék=an ruwe ne na.

123 i=eohaysitoma (a) pekor somo e=yaynu no, sowsut ta (e, nani, a) yayukotaptapu e=ki wa e=hotke wa e=an wa, néun iki=an yakka, iteki e=moymoyke no, e=an wa ne yak,

124 ne Nupurikesun Puriwenkur a=wenpakasnu kus ne ruwe ne na"

125 sekor, hawean.

126 (a) sorekusu inu ne wa a=ki

ら、供物まきをしてくれたので、

118 水の神から、お前がまいた食糧は少しのように思いながらまいても、たくさんになって神のところに届くのだから、それを分けてもらって、それで私もえらくなれた。

119 食物をもらって力がつき、背伸びをし、体を伸ばして、見ると、

120 山すその悪党が、お前が来るのを知って、待ち伏せして、

121 お前を殺しに行こうと思っているのが見えたので、

122 ほうっておいたら、どうがんばっても、お前は女だから、骨までバリバリ食われてしまいそうに見えた。それだから、お前を助けに来たのだよ。

123 私を恐ろしいように思わないで、隅の方にまるくなって寝ていて、私がどんなことをしても、動かないでいたならば、

124 私はその山すその悪党をひどくこらしめてやるから」

125 と言いました。

126 それこそ、聞いただけのことで

117-2 **é=icarpa** エイチャルパ　発音は eycarpa エイチャルパ。

119　**kosimacici** コシマチチ　simacici シマチチと言っているが、語り手自身が訂正した。この語の含まれている部分、(語り手KM)：〈食べ物をもらって力がついた〉、「背のびしながら力ついた」。『萱野辞典』「シマチチ　かがまる：自分の体を縮めること」。この解釈だと、この語の含まれている部分は、〈食べ物の上に身をかがめ(て食べ)、身をのばして見ると〉となる。

120-1 **Nupurikesun Puriwenkur** ヌプリケスン プリウェンクル　[nupuri-kes-un puri-wen-kur 山・の末・にいる・素行・悪い・人]〈山すその悪党〉。性悪(しょうわる)の人食い熊の呼び名の一つ。実際に山のすそに住んでいたわけではない。悪口として山の「下の端」と言うのであろう。

120-2 **apkas** アプカシ　☞110-2

120-3 **etoko us** エトコ ウシ　etoko us エトコ ウシには〈準備する、まさに…しようとする〉の意味もあるが、ここでは待ち伏せしたことを言っている。『久辞典稿』：「待ち伏せる」。

121-1 **koekimne** コエキムネ　[ko-ekimne …に向かって・山に狩りなどに行く] この場合は、熊のほうが人間(「お前」、つまりその少女)を狩りに来ることを言っている。ekimne エキムネ〈山へ行く〉という語を含んではいるが、この熊は村から山へ来るわけではない。山の奥の方から川沿いに下って来るのである。☞130

121-2 **nukar** ヌカラ　〈見る〉。ここでは霊力で、眼前にないことや未来のことも見える(わかる)ことを言っている。122の inkar インカラも同様。

122-1 **ponekonukunuku** ポネコヌクヌク　【他動】[pone-ko-nuku-nuku 骨・と一緒に・(擬態)・(重複)] であろう。(語り手KM)：〈骨(の)ままバリバリくってしまう〉。nukunuku は初出。

122-2 **inkar** インカラ　すぐ前では …siri〈…している様子〉が目的格で、他動詞 nukar ヌカラが使われたが、ここでは …noyne が連用句なので自動詞の inkar インカラが使われている。

123-1 **e=ohaysitoma** エオハイシトマ　☞109

123-2 **sowsut** ソウスト　隅(すみ)と訳すが、角のところとは限らず、家の(部屋の)端のほう(壁際のほう)を言う。

123-3 **yayukotaptapu** ヤユコタプタプ　[yay-uko-taptapu 自分を・一緒に・固める(？)] (ペナコリUT)：〈丸くなってかたくなっている〉。『バ辞典』「ukotaptapu *v.t. to roll up into a ball.*」

126-1 **inu ne wa a=ki p ne korka** イヌ ネ ワ アキプ ネ コルカ　直訳すると〈聞くことで私はしたのだけれど〉。〈ただ聞いただけだけれど〉という慣用句らしい。『金ユ集1』364-5：「Inu newa／akip ne koroka　うち聞くのみで／わたしがすることなれど」、2459-60：「inkan newa／akip ne koroka 見るだけをしているけれど」、『金虎杖丸』2108-9：「ínkan néwa／akíp nekórka　たゞ見物にして／われ居たるなれど」。

p (ne ko) ne korka, wen-ohaysitoma. isoytak kor an pe (wa) kasi un terke=an noyne yaynu=an kor, cís=an kor, a=ekímatek, (a) akusu,

すが、ひどく恐ろしくて、私は、その話をしているものの上に、とびついてしまいそうな気がしながら、泣きながらオロオロしていました。すると、

127 kimatek=an pekor yaynu=an wa,

127 「おびえたような気持ちで

128 "e=a wa e=an yakka wa ka wen na, hokure hokure sowsut ta e=sir(kam)kamu p ne na, tane ek kusu ne na"

128 座っていてもだめだから、さあ早く隅の方に伏せるんだ、もう来るから」

129 sekor hawean ne kamuy ki p ne kusu, reyereye=an híne sowsut ta arpa=an wa, sirkamu=an wa (n), án=an.

129 とその神様が言いましたので、私は、はって隅の方に行って、伏せていました。

130 rápok, mosir ka iyuninka néno hawkan-pererke hemanta, pet pes san hawe as.

130 そうするうちに、山にまで響くようにものすごい声で吠えるやつが、川沿いに下って来る声がしました。

131 akusu néa kamuy, (a, a, ape) apekes oyaetaye híne, ape toyko-úna-úna. pe ne kus sir-toyarekurok.

131 すると、さっきの神様が、燃えさしのたきぎの尻を手前に引いて、火にすっかり灰をかけました。そのため、まっ暗になりました。

132 (wa si) wa ne kamuy ka nitan ruwe ne ya a=erámiskari no, án=an a p, hawkan-pererke kor san wa, ek hemanta, apa or ta, osiroun'oun.

132 そしてその熊も、そんなに足が早いとは知りませんでしたが、すごい吠え声をあげながら下って来たやつが、戸口のところで、大きな図体がつかえて、ひっかかっていました。

133 "pirka pon menoko kewtum or wa a=yaykoramuosma.

133 「よい娘を、おれは心から気に入った。

134 pirka pon menoko ek wa te

134 よい娘が来て、ここに泊まると

126–2 **wen-ohaysitoma** ウェヌオハイシトマ ［ひどく・恐ろしく思う］ohaysitoma オハイシトマ は自動詞。『中千辞典』：〈おそれる〉。『バ辞典』：「ohaine *v.i. to be afraid.*」。他動詞 eohaysitoma〈…を恐ろしく思う〉は☞109, 123

127 **kimatek=an pekor yaynu=an wa** キマテクアン ペコロ ヤイヌアヌ ワ 直訳すると〈私はビクビク(オロオロ、ハラハラ)するように思って〉。ここからカッパの言葉の引用が始まる。しかしこの部分は、カッパが2人称で「お前」と言ったはずのことを、引用している主人公の自称の形で「私」と言っており、次の e=a wa e=an のところからカッパの言葉そのままの、2人称の形での引用に変わる。

128–1 **yakka wa ka wen** ヤッカ ワ カ ウェン yakka ヤッカ と wa ka ワ カ の両方が続けて使われた例は初出。言い直したのであろうか。

128–2 **sirkamu** シリカム 【自動】[sir-kamu 地・にかぶさる]〈はらばいになる〉。《千歳SN》〈うつぶせになる〉。

130–1 **mosir ka iyuninka néno** モシリ カ イユニンカ ネノ iyuninka イユニンカ には [i-unin-ka もの・が痛む・させる]〈人を痛くさせる、人にけがをさせる〉があるが、この場合は、語り手によれば、〈山を痛くさせるように〉ではなく、〈山にも響くように〉。unin ウニン〈(大きな音が)響く〉の派生語であろう。unin-unin ウニヌウニン〈…にゴーゴー響く〉《二風谷KK民話》の例が『音声資料5』にある。二つの unin ウニン は、語源的には関係があるかもしれないが、不明。☞民話(1) 39–3

130–2 **hawkan-pererke** ハウカンペレルケ 〈(熊が)ものすごい声でほえる〉。二語のアクセントで発音している。[haw-kan-per-er-ke 声・の上へ・(割れることを表す語根)・(重複)・(自動詞形成)] 直訳すると〈声の上のほうでバリバリ割れる〉であろうか。

131–1 **kamuy** カムイ 「神」とも訳せるが、ここでは悪い熊(山すその悪党)のことを言っている。すぐ上の kamuy カムイ〈神〉は mintuci tono ミントゥチ トノ〈カッパの王〉を指す。

131–2 **apekes oyaetaye** アペケシ オヤイエタイエ [ape-kes o-ya-etaye 火・の末・その尻・岸(=炉端)・(挿入音)・…を引く] oyaetaye オヤエタイエ は〈うしろへ(=炉端の方へ)ひっぱる〉。燃えさしの木の尻をつかんで手前にひっぱった。《千歳SN》：apekes etaye アペケシ エタイエ〈燃え尻の木あとさ引け〉。《福満S》：apekes oyao na アペケシ オヤオナ〈木の燃え尻が炉ぶちに上がる(=燃えうつる)ぞ〉。[隠]=〈こいつはおしゃべりだからあまり深いことまで聞かせるな〉。『萱野辞典』：「オヤエタイエ 後ろへ引っ張る、あとずさりさせる」。

131–3 **toyko-únauna** トイコウナウナ 二語のアクセントで発音している。[toyko-úna-úna すっかり完全に・(火)を灰の中に埋ける・(重複)]。

131–4 **sir-toyarekurok** シットヤレクロク [sir-toy-ar-ekurok あたり・ひどく・まるっきり・真っ暗である]〈すっかり真っ暗になる〉。

132 **osir-oun'oun** オシリオウヌオウン 二語のアクセントで発音している。[o-sir-oun-oun その尻が・あたり・にはまりこむ・(重複)] oun-oun オウヌオウン は、ounoun オウノウン と発音されることもある。狭いところにつかえてなかなか抜けられない状態を言う。

133 **yaykoramuosma** ヤイコラムオシマ [yayko-ramuosma 自分に/ひとりで・同意する]〈自分の心にかなう〉。

ta rewsi kuni a=nukár wa kusu,

見たから、

135 é k = a n w a a=ponékonukunuku a=rayke wa a=e, ora pirka rámacihi kamuy or ta, a=sipárosukere kunak a=ramú kor ék=an a p,

135 おれはやって来て、骨までバリバリかんで、殺して食って、それからその娘のよい魂に、神の国で、食事の世話をさせようと思いながら来たのだが、

136 ék=an kuni erampewtek pe ne kusu, ape ka úna wa, sir-toyarekurok. (wa)ayke kusu, sine pon menoko, a=turáynu he ki p he an?"

136 おれが来るとは知らないものだから、火にも灰をかけてしまって、真っ暗だ。だからといって、一人の娘を見つけそこなうものか」

137 sekor hawean kor apa pa eun'eun hi ta, néa i=ka opas wa an a kamuy, nep ka cotca humi ne kotom an.

137 と言いながら、戸口のところでモタモタしているときに、さっきの、私を助けにかけつけてくれていた神様が、何か射た音がしたようでした。

138 sir-cotca (hu, hu)humi as akusu néa wenkamuy, pokaskaun hawkan-pererke a p, hawko-mutkot-mutkot kor,

138 矢を射た音がしたところ、そのばけものは、あんなにものすごい声で吠えていたのに、声がとぎれとぎれになりながら、

139 apa or ta ohorkahosipi, hawe as hi pakno ne híne, ora nep hum ka nep haw ka isam.

139 戸口のところで逆もどりしていく声が聞こえただけで、それからは何の音も、何の声もしません。

140 akusu ora néa kamuy suy, cúna ape puspusu híne, apeari híne,

140 するとさっきの神様がまた、灰をかけた火をかき出し、火をたいて、

141 "iki wa iki wenkamuy, a=wenpakasnu.

141 「あのろくでなしのばけものを、ひどくこらしめてやった。

142 a=esípopke p ani, a=rayke p anakne yaykatcipi ka (eaykap ne p) eaykap pe ne pe, a=kuwéhe ani, a=wenpakasnu ruwe ne wa nep

142 私が使っている武器で殺されたものは、生き返ることができないのだが、あいつは私の弓でこらしめたのだから、お前はもう何も恐れることはな

134　**nukar** ヌカラ　神の霊力で見えたことを言っている。

135　**siparosukere** シパロスケレ　【他動】[si-par-o-suke-re 自分の・口・のところに・食事のしたくをする・させる]《…に自分の食事の世話をさせる》。

137　**eun'eun** エウヌエウン　[e-un-eun その頭が・(そこ)にはまりこむ・(重複)] 入口のところで、入るでもなし、入らないでもなし、ちゅうちょしているとか、ぐずぐずしているとかの様子を表す言い方。132の oun'oun とは違う。apapa eun'eun アパパ エウヌエウン は、(千歳SN)：《戸さ外から、のぞきこむ》。(ペナコリUT)：《戸口にモソモソしてる》、「入らないで、戸口に、行ったり来たりしていることを言う」。apapa oun'oun アパパ オウヌオウン は、(千歳SN)：「大きくて、入ることもできないから、戸にはさまっているっていうこと」。

138　**hawko-mutkot-mutkot** ハウコムトコトムトコト　[haw-ko-mutkot-mutkot 声・が・(?)・(重複)]《声がとぎれとぎれになる》。mut ムト は mu ム《つまる》と関係があるか。kot コト は《…につながれてくっついている》と関係があるか。それとも mutkot ムトコト 全体が擬音語か。

139　**ohorkahosipi** オホルカホシピ　【自動】[o-horka-hosipi その尻・逆戻りして・もどる](語り手KM)：(あとずさりしたのではなく)《逆戻りした》。しかし(福満S)：ohorka オホルカ《後ろ向きに》、ohorka hosipi オホルカ ホシピ《あとずさりする》、ohorka apkas オホルカ アプカシ《後ろ向きに歩く》。

141-1　**iki wa iki** イキ ワ イキ　直訳すると《ものごとをしてものごとをする》。néa ネア《あの、例の、前に話したあの》の代わりに ne wa an ネ ワ アン と言うように、これは ikia イキア の代わりであろう。前に言及した人/モノについて《あの…》と言うときに使うという点は néa ネア や ne wa an ネ ワ アン と同じだが、この iki wa iki イキ ワ イキ は、《ああいうことをしたあの…》というニュアンスであろう。

141-2　**wenpakasnu** ウェンパカシヌ　《ひどくこらしめる》。生き返れないように殺してしまったことを言っている。142のも同様。

142-1　**esípopke p** エシポプケプ　初出。a=esípopke p ani… アエシポプケプ アニ… は、(語り手KM)：《神様が使ってる道具で殺したものは、生き返すことができない》。『萱野辞典』：「エシポプケプ　武器：その人あるいは動物が持っている有力な手段」。『バ辞典』：「eshipopkep *n. Arms. Implements of war.*」

142-2　**kuwehe** クウェヘ　ku《弓》の所属形。(福満W, S)は弓を kúhu クフ と言い、kuwehe クウェヘ はアマッポ(動物をとるための仕掛け弓、わなの一種)を言う、というふうに区別していた。(ペナコリUT)は、(語り手KM)と同じく、両者を区別せず、両方とも kuwehe クウェヘ と言う。

e=sitoma ka tane anakne somo ki.
い。

143 hikusu, tane sirpeker, nisatmaw kári ruwe ne na,
143 だから、もう夜が明ける、東が明るくなってきたから、

144 (suke) e=suke wa é=ipe, wa ora ne i=armoysam un e=arpa wa tapne ne hi e=ye kor e=arpa yakun,
144 食事をつくって食べなさい。それから山向こうへ行って、こうこういうことがあったということを言えば、

145 i=armoysam wa aynu toska, e=rura wa arki pa.
145 山向こうから大勢の人々がお前を送って来る。

146 yakun oro ta easir taan wenkamuy, usa munin samamni munin ekayni, haruhu ne yakka a=(e)eymek wa, isam nankor.
146 そうしたら、そのとき初めて、このばけものの肉も、くさった倒木やくさった折れ木に、こやしとして分配されてしまうだろう。

147 ne hi pakno anakne, sinen e=ne wa ene e=kar hi ka isam kusu, e=kama wa, (e) e=otetterke kor e=kama wa, e=soyne e=ahun, kasi un e=okuyma e=osoma yakka pirka ruwe ne kusu néno é=iki yak pirka ora,
147 そのときまでは、お前一人でどうすることもできないから、またいで、ドカドカ踏みつけながら乗り越えて、出入りし、その上へ大小便をしてもいいから、そのようにするがよい。それから、

148 asinuma anakne, mintuci tono a=ne wa, án=an. (#)
148 私はカッパの王である。

149 pirka inaw ka, eyaypataraye, pe a=ne ruwe ne kusu, sat sirari, nikne inaw,
149 私は上等のイナウなどをもらうのは遠慮する者であるから、乾いた酒かすと皮のままのかたいイナウを、

150 i=koyayirayke a ciki, e=kor ekasi eun (hene) e=ye wa, (arsuy hene) arsuy ne yakka pirka kusu, nikne sirari, nikne inaw, i=kocarpa wa i=kore yakne, a=eyáykamuynere kusu ne ruwe ne na, nu!"
150 私にありがたいと思ったなら、おじいさんに言って、一度でもいいから、かたいイナウを私に捧げてくれれば、それで私は一人前の神らしくなれるのだから、そうしなさい。」

143-1 **tane ... ruwe ne na** タネ ... ルウェ ネ ナ　挿入句。hikusu ヒクス〈だから〉は144の e=suke... エスケ... へと続く。

143-2 **nisatmaw kári** ニサトマウ カリ　直訳すると〈夜明けの東の空の白みの気配がただよう〉。(語り手KM)：〈東が明るくなってきた〉。

144　**tapne ne hi e=ye kor e=arpa yakun** タプネ ネ ヒ エイェ コロ エアルパ ヤクン　直訳すると〈... 言いながら行けば〉。「行ってこういうふうに言う」ということをアイヌ語では「こういうふうに言いながら行く」と表現する。

146-1 **munin samamni munin ekayni** ムニン サマムニ ムニヌ エカイニ　〈くさった倒木やくさった折れ木〉。[samam-ni 横になっている・木] は〈「寝木」=倒れた木〉、ekayni [e-kay-ni その頭が・折れた・木] は、〈折れて上のほうがとれて下のほうだけ残っている木〉。munin ムニン は木や草がくさる(朽ちる)ことを言う。(語り手KM)：「(その肉は)みんな、くされ根っこや、くされねっかぶやらに、切ったぎって、分けられてしまう」、「食べない。悪い精神持つ、悪い熊だから」。

146-2 **a=eymek** アエイメク　aeéymek アエエイメク と言っているが、語り手が訂正した。262では、ほぼ同様の文脈で eymekkar エイメッカラ が使われている。(福満S)の言葉では、eymek は目的語を一つだけとる他動詞で〈...を分配する〉、eymekkar は目的語を二つとる複他動詞で〈...を...に分け与える〉。まつ子さんのこの話では、両方とも複他動詞として〈...に...を分け与える〉の意味で使われている。

149-1 **eyaypataraye** エヤイパタライェ　【他動】(語り手KM)：〈遠慮する〉。(福満S)：〈...のことで気の毒な思いをする〉。ここでは、〈身分の低いカッパの王にすぎない者が、立派な神がもらうような立派なイナウをもらっては、もらいすぎで恐縮だから遠慮する〉というようなニュアンスであろう。

149-2 **sat sirari** サト シラリ　〈乾いた酒粕〉とは、(語り手KM)：「どぶろくを作ったら、ざるでこした、ほんとのカサカサした、かす」。

149-3 **nikne inaw** ニクネ イナウ　〈硬いイナウ〉とは、(語り手KM)：「あたりまえのいいイナウ取れないカムイで、くそかわむかないでそのままの、イナウの形、つくったやつ」。nikne ニクネ は川下では nitne ニトネ。

150-1 **koyayirayke** コヤイライケ　☞111

150-2 **nikne sirari** ニクネ シラリ　〈硬い酒粕〉=sat sirari サト シラリ。☞149-2

150-3 **eyaykamuynere** エヤイカムイネレ　【他動】[e-yay-kamuy-ne-re (それ)で・自分・神・になる・させる]〈それで神になる〉とは、そういうものをもらってそれによって(他の神々を酒宴に招くなどできるから)、神々のところで高くみてもらえて、神らしく暮らせる、ということを言う。

150-4 **nu** ヌ　直訳すると〈聞きなさい〉。つまり〈聞いたとおりにしなさい〉。ちなみに ye p nu イェプ ヌ〈言うことを聞く〉とは言われたことに従うことを言う。

151 sekor hawean kor kuripan tek híne oar isam.

151 と言いながらフッと姿が消えてしまいました。

152 orano cís=an a an a kor

152 それから私は泣きながら、

153 "hinak te epak kamuy ne manu p oka kusu keraypo siknu ne manu p a=ki. iyohay-sitomare.

153 「ちょうどいいところに神様が来てくれたおかげで、生きのびることができた。ああ驚いた。

154 kamuy i=ka opiwki somo ki a yakne, ene an poro p i=ko(ao, ao)awosma hike hinak wa siknu=an, a=ponéhe uypehe póka, hinak wa a=kor ekasi i=nukar pe an?

154 神様が助けてくれなかったら、あんな大きなものが私をねらって飛び込んで来たのに、どうやって助かることができたろう。私の骨のくずさえも、おじいさんはどうやって見ることができたろう？

155 (rayran) ráy=an wa isam=an ciki i=okake ta a=kor ekasi, makanak iki aan pe"

155 私が死んでしまったら、私の死後おじいさんはどうしたろう」

156 sekor yaynu=an orano cís=an a an a kor, sirpeker hi a=tere kor, án=an ayne cise onnay ka, sirpeker,

156 と思いました。泣きながら、夜が明けるのを待っていましたが、しばらくして家の中も明るくなりました。

157 wa, a=nukár easkay no, ne hi ora easir, wakkanise=an kusu soyne=an kusu ne hikeka ne síporo p a=kamá ka eaykap pe ne kusu a=otétterke kor,

157 そして、よく見えるくらい明るくなってから初めて、水汲みをしに外へ出ようとしましたけれども、その巨大なものをまたぐことができないので、踏みつけながら、

158 "hemanta i=eyayram-ekasure kusu, wen menoko, ékasi siresure p a=ne wa, topattumi koyaywennukar okakehe ta sinen a=ne, a=kor ekasi i=resu póka eyaykoram-petetne kor,

158 「なんというとんでもないやつが、人のうわてになろうとして、つまらぬ女、おじいさんに育てられた私を、おじいさんが夜襲の群に襲われてどうしようもなく困っていたあとで、私一人を、苦労して育ててくれて、

159 pakno (sukuan) sukup=an

159 私はここまで成長して、おじい

153-1 **hinak te epak** ヒナク テ エパク (語り手KM)：〈ちょうどよく〉。(福満S)：hinak ta epak ヒナク タ エパク〈ちょうどいいあんばいに〉。

153-2 **siknu ne manu p ki** シクヌ ネ マヌァ キ 直訳すると〈生きるということをする/した〉。いのちがあぶなかったがかろうじで助かったという文脈で使われる慣用句。

154-1 **a yakne** ア ヤクネ a は「以前」を表す助動詞で、ここでは〈あのときに神が私を助けてくれなかったとしたら…〉という、過去のことを言うために使われている。

154-2 **hinak wa** ヒナク ワ 直訳すると〈どこから〉だが、この句は〈どうやって、どのようにして〉ということを言うのによく使われる。

156 **sirpeker** シリペケレ 完全動詞のはずだがその前の cise onnay チセ オンナイ〈家の中〉のあとに ta タ も何も置かれず、まるでこれが主語で sirpeker シリペケレ が自動詞であるような形になっている。

158-1 **eyayram-ekasure** エヤイラムエカスレ (福満S)：eyayramu-ikasure エヤイラムイカスレ〈(人の)上になる、(人)より上位に立つ、(人)に負けずにする〉。それと同じ言葉であろう。(千歳SN)：eyayram-ikasure エヤイラムイカスレ〈(人)に負けずにがんばってする〉。ここの場合は〈(私)を負かそうとして〉か。『バ辞典』：「eyairamikashure *v.t. To envy. To desire to surpass.*」；「eyairamkashure *v.t. To endeavour to defeat. To strive with.*」。どれも eka…エカ… ではなく ika… イカ… である。

158-2 **ékasi** エカシ ここでは e エ を高く発音している。たまたまそうなったのか、そういう発音もあるのか不明。(福満W, S)の発音ではいつも ekasi (e エ が低い)だった。(二風谷NK)らの発音でも同様。他地方には ékasi (e エ が高い)という発音もある。ekasi siresure エカシ シレスレ〈(両親がいなくて)祖父に育てられた〉。a=kor アコロ〈私の〉がついていないことに注意。

158-3 **topattumi…** トパットゥミ… ここから159の前半まで挿入句。

158-4 **koyaywennukar** コヤイウェンヌカラ [ko-yaywennukar …に対して・どうしようもなく困りきる]〈…のために、どうしようもなく困りきる〉。☞276 yaywennukar, 神謡17同

158-5 **eyaykoram-petetne** エヤイコラムペテトネ ☞56

wa, ékasi i=utek wa (apkas) apkas=an hike (he) hemanta i=eyayram-ekasure kusu ene, i=koahun siri ne yakka, kamuy oka kus keraypo, siknu ne manu p a=ki siri ene an"

さんに使いに出されているものを、なんで人のうわてになろうとして、こうして私をねらって入って来たんだ。でも神様のおかげで、このとおりいのちが助かったのだなあ」

160 sekor hawean=an kor (soyn) a=otétterke kor soyne=an wa wakkanise=an wa, kor suy (a)harucarpa=an kor,

160 と言いながら、踏みつけながら外へ出て、水を汲んで、そのときにまた食糧をまきながら、

161 ne, i=ka opiwki kamuy a=koyáyirayke, wakkauskamuy a=koyáyirayke, a=ye a a=ye a kor, icarpa=an kunneywa ka ki, wa wakkanise=an wa ék=an wa,

161 私を助けてくれた神様と水の神様に、お礼を言って言って、言い続けながら、朝も神様に供物まきをしました。そして水を汲んで来て、

162 suke=an ipe=an tek híne ora nani, cup hetuku eirpak, ne i=armoysam un kotan kopakke sama a=orán.

162 食事をつくって、ちょっと食べてからすぐ、日が出ると同時に、その山向こうの村に向かって山を下りて行きました。

163 hike cikusi pirka. pe ne kusu pas kane, terke kane sán=an ayne, síporo pet, a=ko(e)sóyosma, (a, a, a, a) a=korán.

163 すると、そこはよい道でした。ですから、どんどん走って下って行きました。しばらく行くと、急にとても大きな川のところに出ました。私はそこに下りて行きました。

164 híne pet pes ponno hankeno sán=an kor inne kotan poro kotan an híne, ne kotan ne kuni a=ramú, pe

164 そして川に沿って少し下って行くと、人の大勢住んでいる大きな村があって、私はその村だと思いました。が、

165 "kotan noski un kur, (s) soyke ta e=(simus)simusiska p ne na"

165 「村のまん中の家の門口で咳払いするんだよ」

166 sekor (haw) a=kor ekasi

166 と、おじいさんに言われていた

161　**wakkanise** ワッカニセ　☞95

162　**cup hetuku** チュァ ヘトゥク　《月/日が出る》。月や太陽の形が全部現れるまで出ることを言う《福満W, S》。

164　**pe** ペ　a=ramú アラム という母音で終わっている語の後だから、続けて発音すればpァの形をとり、a=ramúp アラムァ と言うところだが、ここではいったん文末の言い切りの言い方をしたあとに、あらためて pe ペ を置いて続けているので、p にはならないで pe の形を使っている。

165　**kotan noski un kur soyke ta** コタン ノシキ ウン クル ソイケ タ　直訳すると《村のまん中の人の外(＝門口)で》。「人の外で」とは「人の家の外で」。

hawean pe ne kusu néno, iki=an wa kotan noski ta arpa=an híne, (cinu) cinuye mun ka ta oripak=an híne (an) án=an akusu, nupkikuta menoko, soyne híne, án=an siri nukar wa

ので、そのとおりに、村のまん中まで行きました。そして、掃きだめの上でかしこまっていると、よごれ水を捨てに出て来た女の人が、私がいるのを見て、

167 "(e) túnas he moyre he, hinak wa ek pon menoko, (an) cise soy ta an ya ka a=erámiskari no, án=an aan siri an"

167 「早く来たのか、遅く来たのか、どこから来たのか、若い娘さんが家の前にいたのも、知らないでいたんだわねえ」

168 sekor hawean kor ne kuta kusu ne a nupki ka somo kuta no, ek wa, a=pontekepo i=koruyruypa isampeciskar (sa) i=ekarkar, kor i=yaykoruyruypa kor,

168 と言いながら、捨てるつもりだったよごれ水も捨てないで、来て私の手をなでさすり、私を抱擁して、泣きながら私をなでる挨拶しながら、

169 "hetak hetak ahun=an yak pirka pirka"

169 「さあさあ、お入りください」

170 sekor hawean kor, a=pontekepoho kisma kane, i=tura híne cise or ta ahun=an akusu,

170 と言いながら、私の手をとって、私を連れて行きました。家の中に入りましたところ、

171 a=kor ekasi, tuymano haye, pewre noyne an onnekur, (an híne) an siri, (e) sik anakne oripak somo ki p ne kusu a=nukár kor, arsoke ta reyereye=an wa (#) á=an akusu, i=erank(ar)arap kor,

171 私のおじいさんよりずっと年下の、まだ若いらしい老人がいて、目というものは遠慮しないものですから、私はその様子を見ながら、いろりをはさんで向い側に、はって行って、座りますと、老人は私に挨拶して、

172 "ney wa apkas pe oar pon menoko sinen e=ne wa, hinak wa e=ek ruwe ene an? tumi sawot pe ka okay, kem sawot pe ka okay pe ne na,

172 「どこから旅しておいでの方でしょう、まだほんの若い娘さんお一人で、どこからおいでになったのでしょうか。戦を逃れて来る人もいますし、飢饉を逃れて来る人もいるのです。

166-1 **cinuye mun** チヌイェ ムン [ci-nuye mun (中相接頭辞)…された・…を掃く・ごみ/草]〈掃かれたごみ〉。はきだめの上で、中から人が出て来て見つけてくれるまで、じっと待っていた。最もへりくだった訪問の形。☞74 simusiska シムシシカ、民話(1) 36 sirkikkik シリキッキク

166-2 **nupkikuta** ヌプキクタ [nupki-kuta よごれ水・をあける(全部出して空(から)にする)] 台所の流しも下水道もなかった昔は、使ってよごれた水は外に捨てた。この語に始まる部分、直訳すると〈よごれ水を捨てる女の人が出て来て〉。

167 **túnas he moyre he** トゥナシ ヘ モイレ ヘ 直訳すると〈早いか遅いか〉または〈早かったか遅かったか〉。スピードのことではなく、時の話である。話の内容から推測すると、朝のうちに着いたはずである。

168-1 **a=pontekepo i=koruyruypa** アポンテケポ イコルイルイパ [pon-teke-po 小さい手(所属形)・(指小辞)] [ko-ruyruypa…に/の(所有者を表す)・(あいさつの一種として)なでさする(複)] 私の手をとってなでさすって迎えてくれた〉。雅語的慣用表現。

168-2 **isampeciskar** イサンペチシカラ [isam-pe-ciskar 亡くなった・者・のことを泣く] 人が死んだときに女性たちが声を上げて泣く習慣があった。それを言う。raypeciskar ライペチシカラ((福満W, S)は rayciskar ライチシカラ)とも言う。遠くからたずねて来た人に初めて会ったときや、長い間会わなかった人に会ったようなときも、女どうしは手をとり合い、体をなで合って泣く習慣があったという。ここではそれを言っている。この語は人称表示のないはだかの形に置かれ、そのあとに ekarkar エカルカラ〈…をする〉を置いてそれに人称接辞がつけられている。

169 **ahun=an** アフナン 不定人称形。水捨て女は2人称で e=ahun エアフン と言ったのを、自叙者である娘が引用するときに、自分のことなので、引用文中の自称の形である不定人称形を使ったものであろう。よくある引用の形である。☞127, 277. なお、(語り手KM)は、年下の女性に対してでも、敬語として不定人称形を使うことのある人だったから、この水捨て女の言葉も、初対面の訪問者への敬意の2人称〈あなた様お入りくださいませ〉である可能性もある。

171-1 **tuymano haye** トゥイマノ ハイェ (語り手KM):〈…よりもずっと若い〉。tuymano トゥイマノ は〈遠く〉、haye ハイェ は初出。[他動]〈…より若い〉か。『バ辞典』:「haye *v.i. To be less than.*」。

171-2 **sik anakne oripak somo ki p ne kusu** シク アナクネ オリパク ソモ キプ ネ クス〈目は遠慮しないものだから〉。へりくだりかしこまって、うつむいたまま、はって入って行く人が、目だけを動かして家の中の様子や家人の姿を見ている。この種の場面の常套句。

171-3 **i=erankarap** イイェランカラプ 家の主人である老人のほうからあいさつする。訪問者の女性は、だまってかしこまっている。☞民話(1) 47

172 **tumi sawot pe ka okay, kem sawot pe ka okay pe ne** トゥミ サウォト ペ カ オカイ ケム サウォト ペ カ オカイ ペ ネ 同じ表現が「民話(1)」64に、逆の順序で出てくる。そこでは初めの ka カ のあとは oka オカ、あとのは okay オカイ となっている。そのほうが普通の形である。okay オカイ は、pe ペ と pa パ の前で oka オカ の代わりに出る形である。ここでは、あとから出てくる pe ペ がすでに頭にあったために、それにつられて okay オカイ と言ってしまったのであろう。

173 a=poutari iwak kuni a=tere kunak a=ramú a korka menoko e=ne kusu, a=e=kóuwepekennu, na, e=motoorke, i=ye wa i=nure!"

173 息子たちが帰って来るのを待とうと思いましたが、あなたは女性ですからおたずねしますので、あなたの素姓を私に話してください」

174 sekor ne onnekur hawean hikusu

174 と、その老人が言いましたから

175 "tapne, a=kor ekasi, i=resu póka eyaykoram-petetne kor, i=resu ayne, ta pakno póka án=an akusu,

175 「実は、これこれこういうことがあって、私のおじいさんが苦労しながら私を育ててくれて、そうして私がここまで大きくなると、

176 rápok tane a=kor ekasi síno kemapase wa, moymoyke ka eaykap, nep ka kar ka eaykap pe ne kusu, ora aynu sakno, aynu a=nukár ka eramiskari no oka=an ayne,

176 その間におじいさんはすっかり足腰が弱って、動くこともできず、何をすることもできなくなったものですから、それに、人がいなくて、私たちは、ほかの人を見たこともなく暮らしていたのですが、

177 'onne=an yakun i=okake ta, ene é=iki hi ka isam na néun póka é=iki wa, e=aynuhunara p ne na'

177 『私が死んだら、私の死後に、お前はどうすることもできないから、なんとかして人を探しなさい』

178 sekor hawean kor i=sirepakasnu híne, ék=an

178 と言って、道を教えてくれて、それで私は来たのです。

179 rewsi=an uske ka i=epakasnu wa, oro ta rewsi=an ka icarpa=an ka ki a p, Nupurikesun Puriwenkur, i=kosan pe, mintuci tono i=ka opiwki kusu keraypo siknu ne manu p a=ki wa, nispa kamuy a=kosírepa siri ene an hi ne!"

179 泊まるところも教えてくれたので、そこに泊まり、供物まきもしたのですが、山すその悪党が、私をねらって山から下って来たのを、カッパの王様が助けてくれたおかげで、なんとか生きのびることができて、こちら様のところまでたどりついたわけです」

180 sekor hawean=an akusu earkinne i=erampokiwen

180 と私が言いますと、とても私に同情することを、何回もくりかえし言

173-1 **menoko e=ne kusu, a=e=kóuwepekennu na** メノコ エネ クス アエコウウェペケンヌナ 〈あなたは女だからおたずねする〉。「民話(1)」では、来たのが男なので、父はくわしいことをたずねずに、息子たちが帰宅するのを待っている。☞「民話(1)」62

173-2 **i=ye wa i=nure** イイェ ワ イヌレ 直訳すると〈私に言って聞かせなさい〉。このように、「言ってください」「話してください」と言うとき、kore コレ を使わず núre ヌレ を使うのが普通である。たとえば ye wa en=kore イェ ワ エンコレ と言わないで ye wa en=nure イェ ワ エンヌレ をよく言う。

175-1 **tapne** タプネ 直訳すると〈このように〉、つまり〈かくかくしかじかで〉。昔話の中で、引用文の始まりによく置かれる。引用されている部分よりも前に言われた言葉を省略して、このように言う。同時に、ここから引用文だとわかる目印になっている。その意味では、「実は」と訳すとだいたい当たることもある。「民話(1)」66-1では、 tapne tapne タプネ タプネ と二回繰り返している。

175-2 **eyaykoram-petetne** エヤイコラムペテトネ ☞56

176 **aynu a=nukár ka...** アイヌ アヌカル カ... 〈人間(というもの)を見たことがなくて〉。

hawkokari (ao) a=kor ekasi, kemnu hawkokari kor

い、私のおじいさんを気の毒だと、くりかえし言いながら

181 "(pewni) pewre=an hi epitta anakne, ukopayoka=an

181 「若いころは、いつもお互いに行き来していました。

182 inne kotan, inne utarihi esapane wa, an pe a=kor nispa ne wa, (ke) etakasure kewtumu pirka,

182 大きな村の、大勢の村人の、首長であられた方でしたが、人並すぐれて心根のよい方でした。

183 pe ne kusu ukopayoka=an ukosinewpa=an (to) tuyma yakka, ki kor, oka=an pe ne ruwe ne a p, huskotoy wano ka asinuma ka apkas=an ka eramiskari no, án=an

183 ですから、遠くてもお互いに行き来し、訪問し合っていたのでしたが、もうずいぶん前から、私も行かずにいました。

184 néun néun ne wa a=hotánukar kunak a=ramú hikeka apkas=an ka eaykap,

184 何かかにか、いろいろあって、様子を見に行こうとは思うのですが、行くことができませんでした。

185 ora a=poutari a=kotánu un utar pewre utar, iramante kusu, iwor or péka payoka kor, ne eci=kotánuhu, ne uskehe a=epákasnu pa.

185 私の息子たちや村の人たち、若い人たちが、狩をしに山の中を歩くときは、その、あなたたちの村のところを教えて、

186 'karanke eci=payóka ciki supuya, póka esiruwante yan'

186 「近くを通ったら、煙が出ているかどうかだけでも見てくれ」

187 sekor, hawean=an hikeka,

187 と私は言ったのですが、

188 'nep ka supuya ka a=nukár humi ka isam pe'

188 「何も、煙なんか全然見えないようだけど」

189 sekor (hap) a=poutari ka haweoka kor okay pe ne korka, apunno okay pe ne (ne) kunak a=ramú kor oka=an awa ene onne (ku) nispa, yayeramu ka sitne kor

189 と、息子たちも言っていましたけれども、きっと無事でおられるのでしょうと、思っていましたが、そのように、ご老人が、難儀をしておられたとは、知らないでおりまし

180　**hawkokari** ハウコカリ　【助動(？)】[haw-ko-kari 声・と共に・回す]〈…することを何回もくりかえし言う〉。

182　**inne kotan … ne wa** インネ コタン … ネ ワ　〈わが長者(a=kor nispa アコン ニシパ)は…だったが〉。アイヌ語でよく起こる語順転換の一つ。

183　**ukopayoka=an … tuyma yakka ki** ウコパヨカアン … トゥイマ ヤッカ キ　連用語(副詞句)の tuyma yakka トゥイマ ヤッカ〈遠くても〉を言うより前に〈お互いに行き来して…〉という動詞が出てしまったので、最後に ki キが補われている。アイヌ語でよく起こる語順転換の一つの形。

189　**yayeramu ka sitne** ヤイェラム カ シトネ　〈苦しむ、難儀/苦労する〉。(福満S)：yayeramusitne ヤイェラムシトネ〈難儀する、病気で苦しむ〉、eyayramu ka sitne エヤイラム カ シトネ〈(そのこと)で心が苦しい、…をつらく/苦しく/くやしく思う〉。(福満W)：eyayeramu ka sitne エヤイェラム カ シトネ〈…で気持ちが悪い〉。

an aan (pe) ya ka a=erámiskari no, án=an hawe ene an"

たなあ」

190 sekor hawean kor i=kemnu hawkokari kor,

190 と言いながら、くりかえしくりかえし、私のことを気の毒だと言いながら、

191 "hokure túnas pirka suke a=kor rupnemat ki wa, pon katkemat ipere yak pirka pirka"

191 「さあ早く、ばあさんがよい料理を作って、お嬢さんに食べさせてあげるといい、そうしなさい」

192 sekor, ne onnekur hawean pe ne kusu, rupnemat suke híne (m) pirka ipe a=i=kíre hikeka,

192 と、その老人が言ったので、奥さんが料理をして、よい食事をさせてくれましたけれども、

193 "a=kor ekasi hemanta e kor an wa, kina takup, a=supa wa a=kohóppa a p ora, sinen a=ne, pirka ipe a=ki p he an?"

193 「おじいさんは何を食べているかしら、私は野草ばかり煮て置いて来たのに、私一人がごちそうを食べるのかしら?」

194 sekor yaynu=an pe ne kusu a=kor itanki or oma p ne yakka, kam us noyne pirka noyne oka uske (a, a, a) a=kor ekasi a=komékare kusu a=yanke kor,

194 と思うものですから、私のおわんに入っているものも、肉のついているような、よいようなところを、おじいさんに持って帰ってあげるために、おつゆから出しました。すると、

195 "poronno nisatta an yakun poronno a=e=síkere kusu ne na hokure, poronno ipe wa, e=tumkor pe ne na ne na"

195 「たくさん、明日になったら、たくさん持たせてあげるから、さあどんどん、たくさん食べて、力をつけなさいよ」

196 sekor a=i=yé hikeka, a=kuykuy ka a=rukí ka a=nukúri no, a=kor ekasi a=erámpokiwen pe ne kusu, iyapte=an, kor ipe=an.

196 と言われます。でも私は、かんだり、のみこんだりすることも、なかなかできないほど、おじいさんがかわいそうに思えましたので、みをおつゆの中から出しながら、食事をしました。

197 kironnuno (ru) rur takup ne yakka kironnuno a=e wa, án=an, ayne sir-tókes akusu,

197 おなかいっぱいに、汁だけでもおなかいっぱいに食べてから、しばらくいて、夕方になると、

198 esoyne niske osura humi as

198 外でたきぎの荷をおろす音がし

191　**rupnemat** ルプネマト　[おとなである・女]《若くない女性、中年すぎの女性》。ここではonnekurオンネクル《老人、年取った男性》との対で使われている(192)。民話の中ではcácaチャチャ《じいさん》との対でも出てくる。ekasiエカシとの対になるhúciフチは、老年の女性で、これはしかも敬意を含んだ言葉になる。rupnematルプネマトはそれほど年取ってもいないし、特別の敬意のない表現である。この奥さんは子どもが三人とも未婚なのだから、まだ四十歳前後ぐらいだったろう。☞民話(1) 37-2

194-1 **komekare** コメカレ　[複他動]《(出された食べ物の残り)を…に持って行って/持って来てあげる》。
194-2 **yanke** ヤンケ　直訳すると《岸/陸に上げる》、ここではおわんのおつゆの中の「み」を、取り出したことを言っている。

195　**nenanenana** ネナネナ　《(力を持つの)だよ、だよ》。何回もくりかえして言った言葉の引用では、このように最後の部分だけがくりかえされることがよくある。日本語の「元気になるんだよ、元気になるんだよ」のようにかなりの部分をくりかえすことをしない。

196-1 **nukuri** ヌクリ　年取って、あるいは体調が悪くて、などで、体が重く、気も重くて、だるく、おっくうで、キビキビと動けない状態を言う。ここでは動詞のあとに置かれて《さっさと…することができない》。そのあとのnoノは、ここでは《…するほど》。
196-2 **iyapte** イヤプテ　[i-yapteものを・(二つ以上のものを)岸/陸に上げる(複)] yapteに対する単数形はyankeヤンケ。☞194

198-1 **niske** ニシケ　[ni-sike木・荷物] たきぎの束を背負っている、その背負い荷。nísikeニシケのsとkの間のiが、アクセント核の直後の低く弱い位置で脱落した形。この語り手はいつもそう発音している。

akusu ora, cisekor katkemat soyne híne án=an hi ye kotom an.

199 híne (pan) pon menoko ahun wa inkar=an hike pirka wa okere pon menoko, tu pon menoko utura wa ahup pa.

200 orano, ney wano i=amkir pa (hene ki pa humi ne) pekor haweoka kor, (#)

201 i=ruyruypa kor, isampeciskar raypeciskar i=ekarkar, utaspa uneno, uneno(u) uwekarkar(u)=an pa

202 hi orano, suke pa hike, á=an wa án=an ka, etoranne p ne kusu, pon menoko utar suke pa kor a=kasuy wa suke=an ne ya nen nen iki=an kor oka=an rápok yuk se utar iwak pa humi as híne,

203 pon menoko utar ikokamahupte pa kor, án=an hi ye kotom an akusu soy-osipita utar, tu irwak (sum) kamuy sirine oka okkaypo utar, utura wa ahup pa híne, oripak=an wa án=an akusu,

204 "ney wa ek pe pon menoko ne wa, a=onáha uwepekennu a ruwe he an?"

205 sekor kiyanne okkaypo, onaha kowepekennu akusu, iyonane hike,

ました。すると、奥様が外に出て、私が来ていることを言ったようでした。

199 そして若い女性が入って来ました。見ると、それはそれは美しい、若い女性、二人の若い女性が、連れだって入って来ました。

200 それから、二人は、どこかで私を見たことでもあるかのように言いながら、

201 私の手をとってなでながら、抱擁して泣く挨拶を私にしました。私たちはお互いに同じようにして挨拶しました。

202 それから、彼女たちは食事のしたくをしましたが、私は座っているのはいやなので、娘さんたちが料理するときは手伝って料理したり、いろいろしているうちに、鹿を背負った人たちが帰って来た音がして、

203 娘さんたちが上座の窓から肉を受け取って中に入れながら、私がいることを外の人たちに言ったようでした。すると、外で身じたくを解いた人たち、二人兄弟、神々しいほど立派な若者たちが、連れだって入って来ました。そして私がかしこまっていると、

204 「どこから来た娘さんでしょうか。そしてお父さんはもういろいろお聞きしたのですか？」

205 と年上の若者が父親にたずねると、父親のほうが、

198-2 **cisekor katkemat** チセコロ カトケマト 《家の主婦である奥さん》。

200 **ney wano i=amkir pa pekor** ネイ ワノ イヤムキリ パ ペコロ 直訳すると《どこかから私を見覚えているかのように》。初めて来た人に対して好意的に迎える様子を表す常套句。(福満W)の言い方では：ney wano i=amkir pe koraci ネイ ワノ イヤムキリ ペ コラチ(『音声資料1, 2』ほか)。

201 **isampeciskar raypeciskar** イサンペチシカラ ライペチシカラ 同じ意味の語をくりかえして対句にしている。☞168

202-1 **suke=an ne ya** スケアン ネ ヤ yaは聞こえないが、後日語り手が補った。

202-2 **rápok** ラポク 《...している間》。あとにta タ《に》が置かれることもあるが、たいていはこのままで、《...している間に/うちに》という意味の連用節をつくる。

203-1 **ikokamahupte** イコカマフプテ 《狩猟から帰って来た人の持って来た獲物を上座の窓から受け取って家の中に入れる》。☞民話(1) 58

203-2 **soy-osipita** ソヨシピタ 第一音節と第三音節とが高く、つまり2語のアクセントで発音されている。しかし、yイとoオとは一つの音節yoヨと発音されている。客が来ているところへ帰って来た人は、外で外套などをぬいでから家に入る。(二風谷KK, NK)：soyosipitatpa ソヨシピタトパ(一語のアクセント)(『音声資料5, 6』)。☞53, 民話(1) 59

205 **kowepekennu** コウェペケンヌ [ko-uwepekennu ...に・事情をたずねる] 人称接辞がつかないときにkouwepekennu コウウェペケンヌの代わりによく出る形。☞民話(1) 62-2

206 "uwepekennu=an wa kusu onnekur a=kemnu.

206 「たずねたからこそご老人を気の毒に思うのだ。

207 i=armoysam ta inne kotan poro kotan, ekotanne onnekur (to) etakasure kewtumu pirka p ne wa, iwor or ta, uwamkir=an, pe ne híne orano ukopayoka=an, sine pa, arsuy ranke ne yakka, ukosinewe=an ukopayoka=an

207 山向こうに村人の多い大きな村に住んでいる老人が、格別に心根のよい人で、その方と私とは山の猟場で知り合った。そしてそれからはお互いに行き来していた。一年に一度ずつだけれども、訪問し合い、行き来し合っていた。

208 eci=nokán hi ta ne p ne kusu, ne ekasi, eci=erámiskari nankor yakka, etakasure kewtumu pirka wa ukopayoka=an sine pa arsuy ranke ne hikeka ki p ne a p,

208 お前たちの小さい時だったから、その老人を知らないだろうけれども、格別に心根のよい人なので、お互いに行き来し、一年に一度ずつとはいえ、行き来していたのだったが、

209 oroyaciki, kotanuhu topattumi (ko, koe) kooka wa, cise ka opitta a=uhúyka wa isam okake ta,

209 いまわかったところでは、村が夜襲の群にやられて、家も全部燃やされてしまい、そのあとは、

210 sine pon matkaci (i) eyayramtomtuye wa, resu póka eyaykoram-petetne kor, sirkirap sukup ki kor an aan ayne, ta pakno, kor matkaci poro hi ora,

210 一人の小さい女の子を生きがいにして、苦労して育てながら、不自由しながら生きてきたらしくて、女の子がここまで大きくなってから、

211 aynuhunara kusu utek wa, ek pe,

211 人を探しに、この娘さんは使いによこされて来たのだが、

212 rewsiusi ta Nupurikes, koekimne, pon menoko koekimne p,

212 泊まるところで、「山すそ」が殺しに来た、娘さんを殺そうとねらって来たのを、

213 mintuci tono, ikaopas kus keraypo apunno, siknu wa i=kosirepa ruwe ne yak ye kor ek

213 カッパの王がかけつけてくれたおかげで、いのちが助かって、ここまで来たのだと言うので、

207　**iwor or ta** イウォロッタ　この場合は iwor イウォロ は山奥の猟場を指している。☞2-1

208　**kewtumu** ケウトゥム　語末の u は発音されず、kewtum ケウトゥム と発音されている。しかし、「精神(気だて、心根)がよい」という文脈だから、概念形ではありえない。二つの両唇音(m と p)の間で u が脱落したのであろう。

210-1 **eyayramtomtuye** エヤイラムトムトゥイエ　eyaytom, tuye エヤイトム トゥイエ と言っているが、後日、語り手が訂正した。初出。(語り手KM)：〈...を生きがいにして〉。

210-2 **resu póka** レス ポカ　u が、前の s と次の語の語頭の p との間にはさまれて脱落し、respóka レスポカ と言っている。

211　**utek wa ek** ウテク ワ エク　utek ウテク をここでは第一音節を低く、第二音節を高く発音している。(福満W, S)の発音では、útek ウテク と、第一音節が高い。(語り手KM)の民話でも、他の箇所では útek ウテク のように、第一音節が高く発音されている。utek ウテク の主語は onnekur オンネクル、つまり娘の父親、目的語は kor matkaci コル マトカチ、つまり娘、ek エク の主語は娘。

212-1 **rewsiusi ta** レウシウシ タ　前の語の語末の i が無声化して脱落し、rewsiusta レウシウシタ と発音されている。

212-2 **Nupurikes** ヌプリケシ　〈山すそ〉。Nupurikesun Puriwenkur ヌプリケスン プリウェンクル〈山すその悪党〉の前半だけを言った。☞120

213　**ye kor ek** イェ コロ エク　直訳すると〈言いながら来た〉。「来てそう言った」ということをアイヌ語ではこのように表現する。

wa,

214 kewkurkasi a=eyáysirpa kor kewe a=homsu ne ya, (e,o) onnekur a=kemnu ne ya ki kor, án=an ruwe ne kusu,

214 抱擁して体をなでながら、あぶなかったことの見舞いを言い、よく無事で来たと喜んだり、老人を気の毒がったりしていたのだから、

215 hokure túnas, (kot) kotan or péka ka, a=otúwasi no oka okkaypo utar, pon menoko utar, eci=sirén wa,

215 さあ早く急いで、村じゅうを回って、この人なら大丈夫と思える若い男女をさそって、

216 onnekur túnasno kane (kaci) kasi eci=opás somo ki wa ne yakne, siknu kewehe somo (ecika) eci=nukár, nankor kusu, nisatta túnasno, eci=payóka p ne ruwe ne na"

216 老人を急いで助けに行かないと、生きた姿を見られないだろうから、明日の朝早く、お前たちは行くのだぞ」

217 sekor, onnekur hawean akusu ineap ta, onaha ye p (nu) nu pa wa iki pa ya ka a=erámiskari

217 と老人が言いますと、なんとまあ、父親の言うことをよく聞いて、そのとおりにするものでしょう。

218 hetce pa kor, ora kanna ruyno i=kewa homsu, (o) okkaypo utar ka (ke) ki pa pon menoko utar ka cis rok cis rok kor (i) i=kewa homsu a i=kewa homsu pa kor,

218 はい、かしこまりましたと言いながら、またもや、若者たちも災難に会ったことの見舞いを言ってくれましたし、娘たちも泣きながら見舞いの言葉を何度も言ってくれて、

219 ora ne kiyanne okkaypo poniwne okkaypo uwekohopi kotan kes un kotan pa un hoyuppa.

219 それから、その年上の若者と年下の若者が二手に分かれて、村の下手(しもて)へ、村の上手(かみて)へと、走って行きました。

220 akusu nispa ne kur nispa néno, wenkur ne kur wenkur néno, haru ponno ponno ne yakka uwekarpare.

220 すると、金持ちの人は金持ちなりに、貧しい人は貧しいなりに、食糧を、たとえほんの少しずつでも、集めてくれました。

214　**kewkurkasi eyaysirpa** ケウクルカシ エヤイシルパ　[kew-kurkasi e-yay-sirpa 体・の上一面・で・自分・をこする[複]]〈(相手)の体をなでさする〉。ここの場合は、遠くから危険な目に合いながらやっとたどりついた人をいたわりながら迎えて。(語り手KM)：「女たちのすること、男はしないだろう、男が女にはしないだろう」。引用文中の自称(不定人称)の形(a=アのついた形)で言っているが、女性たちがしたことを言っているのか。302には、祖父の死を孫娘が悲しむ場面に、同じ表現が出てくる。

215　**otuwasi** オトゥワシ　(福満S)：〈...を見込んで頼りにする〉。『萱野辞典』：「オドワシ　信頼する、見込みがある」。a=otúwasi no oka アオトゥワシ ノ オカ〈見込んで頼りにすることができるような〉。(語り手KM)：〈達者な、元気のある、力の強い〉。ootúwasi オオトゥワシと聞こえるがa=otúwasi アオトゥワシであろう。

218　**kewa homsu** ケワ ホムス　kewe homsu ケウェ ホムスがなぜか転訛した。ここの段落では3回ともkewa ケワと言っている。214ではkewe homsu ケウェ ホムスと言っている。これまでの資料では、他の話者は皆kewe homsu ケウェ ホムスと言っていた：(福満W, S)、(平取HK)、(二風谷NK, HC)、『萱野辞典』も「ケウェホムス」。

221 "sine (cos) cise or wa haru somo a=sanke p ne"

221 「一軒だけから食糧を出すものではない」

222 sekor ne kor ki híne (poro) poronno haru (iko) a=i=kóuwekarire, a=eyáykopuntek.

222 と言いながら集めてくれて、たくさん食糧をもらって、私はうれしくなりました。

223 onuman-ipe a=ki hikeka a=kor ekasi a=komékare kuni p a=yanke kor,

223 夕食のときも、私はおじいさんに持って帰ってあげるものを、おつゆから出していると、

224 néa ponmenoko utar ka i=kasuy pa wa iyapte pa, rupnemat ne yakka ki kor,

224 その娘さんたちも私に協力して、おつゆから、みを出しました。奥さんもそうしてくれました。

225 poysaranip a=kor pe ne hike ne ponsaranip sikteno,

225 私は小さい小出しを持っていたのですが、その小出しいっぱいに、

226 "hetak túnas a=kor ekasi a=kosírepa yakne nani (a=e, a) a=ere p"

226 「ああ早くおじいさんのところへ行って、すぐ食べさせてあげたいのになあ」

227 sekor yaynu=an kor iyapte=an.

227 と思いながら、おつゆからみを出しました。

228 ora kunneywa (sir) nókunneywano okkaypo utar hopunpa wa parka (oa, o) oranke pa wa, haru (pe) pirka uske tekenumke, kosne noyne oka uske tekenumke pa wa,

228 それから朝、まだ暗いうちに、若者たちが起きて、棚から食べものを下ろして、よいところ、軽いようなところを手で選んで、

229 poniwne okkaypo, poniwne matnepo, ne kotankorkur, matnepoho póho poniwne (hi) hike i=rura.

229 年下の若者と年下の娘、つまりその村おさの娘さんと息子さんの年下のほうが、私を送ってくれました。

230 ora kotan or wa ka, hempak hempak okkaypo, hempak (hepa)

230 それから、村からも、数人の若い男と、数人の若い娘が、私を送って

222　**a=i=kóuwekarire** アイコウウェカリレ　直訳すると《私のところに集められた》。《語り手KM》：《もらった》。

223　**onuman-ipe a=ki hikeka** オヌマヌイペ アキ ヒケカ　直訳すると《夕食を食べても》。

224　**rupnemat** ルプネマト　《若くない女性、中年すぎの女性》。☞191, 民話(1) 37-2

225　**poysaranip** ポイサラニプ　[pon-saranip 小さい・樹皮の繊維を編んで作った袋]《樹皮製の小出し(ものを運ぶのに使う小袋)》。《語り手KM》は、「sの前でnはyになる」という音素交替規則を持たないようだが、この語はこの形で一語に固まっているために、昔の話者と同じ発音になっている。すぐあとに、分析的な ponsaranip ポンサラニプ の形が出ている。

228-1 **nókunneywano** ノクンネイワノ　【副】[no-kunne-i-wano (?)・暗い・とき・から]《まだ暗いうちに、夜明け前に》。kunneywa クンネイワ は [kunne-i-wa 暗い・とき・から] だが《朝》で、名詞としても副詞としても機能する。nokunneywano ノクンネイワノ は副詞のみ。

228-2 **parka oranke** パルカ オランケ　[parka o-ranke 天井の横木/棚の上・(そこ)から・…を下ろす] parka については、☞7-1

hempak pon menoko, i=rura pa híne (m), hosipi=an kusu ne hi ta,

くれて、私が帰ろうとしたときに、

231 "onnekur onne pakno pon a=poho onnekur kasi oyki. tane onne kaspa wen kaspa p ne hawe ne yakun, (a=turá wa) eci=turá wa eci=árki ka ene ne hi ka isam nankor.

231 「ご老人が亡くなるまで、下の息子が、ご老人の面倒をみるんだよ。今はもう年をとりすぎ、弱りすぎたという話だから、お前たちがここへ連れて来ようにも、どうしようもないだろう。

232 kusu, onnekur kasi e=oyki kor eci=oká ayne, (o) onne ciki, ora, onnekur okake supuyasak kuni ka a=erámpokiwen.

232 だから、ご老人の世話をしながらそこで暮らしていて、亡くなったら、老人の死後、煙が絶えるのはお気の毒だ。

233 kusu, utannimara a=ko(usare)usaraye a=utári, pon serkehe ne yakka a=kowsaraye kusu ne ruwe ne na pirka ya, uwepekennu.

233 だから、私は村人の一部を分け、私の村人の、たとえほんの一部でも、分けてあげようと思いますが、いいでしょうか、とおたずねしなさい。

234 onnekur (si) apunno an wa eci=kosírepa ciki, (kowepek) eci=uwépekennu wa pirka yak, onnekur ye ciki,

234 老人が無事でいるところに、お前たちが着いたら、おたずねして、いいと老人が言ったら、

235 nani eci=utártak kusu eci=hosíppa yakne, a=utánnimara onnekur (a=koutar) a=kowsaraye kusu ne ruwe ne na, néno (yo) eci=ikí pa p ne na"

235 すぐに、人を呼びに、もどって来なさい。そうしたら、私は村人の一部を、老人に分けてあげるから、そのようにするのだよ」

236 sekor, cisekor onnekur hawean.

236 と、家の主人の老人が言いました。

237 cís=an kor a=eyáykopuntek kor, ora a=i=rúra wa hosipi=an wa ék=an.

237 私は泣いて喜んで、それから送られて帰って来ました。

231-1 **onne** オンネ　ここの場合は〈年老いて亡くなる〉。
231-2 pon a=poho ポヌ アポホ　これを主語にして3人称で言っているが、すぐあとから、2人称の言い方に変わる。
231-3 **wen kaspa** ウェン カスパ　直訳すると〈悪く(だめに)なりすぎた〉。
231-4 **p ne hawe ne yakun** ペ ネ ハウェ ネ ヤクン　直訳すると〈...と言うのであれば〉。娘の話を聞いてわかったことを言っている。

232　**supuyasak** スプヤサク　[supuya-sak 煙・を持たない] 主語は onnekur okake オンネクル オカケ〈老人の死後〉。煙が絶えるとは、住む人がいなくなることで、この場合は村が消滅することになる。

233-1 **utannimara** ウタンニマラ　[utar-nimar-a 一族・の一部・(所属語尾)]〈...の一族の一部〉。a=utannimara アウタンニマラ のこと。なぜか a= ア がついていない。
233-2 **pon serkehe** ポン セルケヘ　serke(he) は〈...の部分〉。一族(村人)の中の小さい部分。nimara ニマラ は半分ぐらいのことも、もっと少ない部分だけのことも言うが、ほんの一部を分けてあげるという意味で、この句をつけ加えている。
233-3 **kowsaraye** コウサライェ　[ko-usaraye ...に・...を分ける]〈...に ...を分ける〉。

235　**utartak kusu** ウタラタク クス　〈人々を呼びに〉。分けてあげる人々を。t の前の r(タの前の ラ)が t ッ になっていない。

238 híne ne rewsi uske ta, inne utar i=rura pa híne, rewsi uske ta arki=an pa akusu

238 そしてその、泊まるところに、大勢の人々が私を送って来て、みんなでその泊まるところまで来ると、

239 "iyohay-sitomare, ene an pe, kamuy isam pe ne a ciki makanak iki wa a=kor pon menoko siknu p ne aan wa, kamuy okay pe sóne kusu, apunno i=kosirepa, pirka kewehe a=nukár siri ene an"

239 「おやまあ、こんなもの、神様がいなかったら、いったいどうやって、この娘さんは助かることができたろう。ほんとうに神様のおかげで、私たちのところまで無事にたどり着いて、元気な姿を見せてくれたのだなあ」

240 sekor haweoka kor ne wa an (ke) Nupurikes Puriwenkur toykokikkik pa kor,

240 と言いながら、その山すその悪党を、皆でひどくぶんなぐりながら、

241 "hemanta (eya) pon menoko, sine pon menoko, eyayram-ekasure kusu, koekimne siri ene an,

241 「とんでもないやつだ、たった一人の娘のうわてになろうとして殺しに来やがって、

242 yakka, i=wentarapte hene somo ki yakun, toyko-munin toyko-péne, atteyne mosir a=koóterke kuni p ne ruwe ne na"

242 でも、夢を見させでもしなかったら、すっかりくさった、まるっきりベチャベチャの、ビショビショにぬれた地獄へ、け落とすからな」

243 sekor okkaypo utar haweoka kor, toyko-kikkik pa kor, ninpa-ninpa pa wa, cise (imak) imak un ninpa-ninpa pa ora, marattoho póka tuypa pa ka somo ki no (no), néno ari wa, ora suke=an pa wa, ipe=an

243 と若者たちは言いながら、皆でひどくぶんなぐりながら、ズルズルひきずって、家のうしろのほうへズルズルひきずって行ってから、その頭さえも切りもしないで、そのまま置いて、それから私たちは食事をつくって食べました。

244 ora okkaypo utar ne yakka (to) mintuci tono wakkauskamuy koyayirayke hi ye pa kor, i=eokari

244 それから若者たちも、カッパの王様と水の神様に感謝の言葉を言いながら、私に代わって、沢まで下りて

239　**pirka kewehe a=nukár** ピリカ ケウェヘ アヌカラ　末尾のrが不鮮明でa=nukáアヌカのようにも聞こえるが、a=nukárアヌカラである。直訳すると《私たちは(彼女の)無事な姿を見た》。

241　**eyayram-ekasure** エヤイラムエカスレ　☞158

242-1 **yakka** ヤッカ　《そうしても、それでも》という譲歩を表す語だが、ここではその前後のつじつまが合わない。察するところ、「それでも夢を見させでもしたならば…」とでも言おうとして言い始めたあと、逆の内容になっていったものであろうか。

242-2 **wentarapte** ウェンタラプテ　[wentarap-te 夢を見る・させる]《(人)に夢を見させる》。神や死者が生きている人間に言うことがあるときは、夢を見させて告げる。ここの場合は、すぐあとでわかるように、娘を殺しに来るなどというとんでもない悪事を働いたこの熊が、地獄へ落とされたくないために、夢に現れて、人間に有利な条件を提起して助けを要求する、いわば取引きをするわけである。夢の話は「民話(1)」にも出てくる。

243-1 **marattoho…** マラットホ…　《頭さえ切りもしないで》。☞262

243-2 **ari** アリ　第一音節aアを低く、第二音節riリを高く発音している。これはa=riアリ《私たちはそれの皮を剥ぐ》という語の発音である。しかし、ここでは、皮を剥いだ話の出てくる場面ではなく、「そのままにしておいた」ことを言うべき文脈である。その意味では、普通はáriと、第一音節を高く、第二音節を低く発音するのだが、なぜか反対のアクセントになっている。

244-1 **koyayirayke** コヤイライケ　[ko-yayirayke …に・感謝する] 発音はkoyayraykeコヤイライケ。☞111

244-2 **i=eokari** イイェオカリ　発音はiyeokariイイェオカリ。eokariエオカリ《…に代わる、…の代わりにする》は初出。(福満S)の言葉には、接頭辞e-エのつかないokariオカリ《…の代わりに(する)》があった。『萱野辞典』:「オカリ」。(福満W)はkawarineカワリネと言っていた。

pa wa nay or ta rap pa wa icarpa ne ya, cise piskan péka icarpa pa.

行って供物まきをしたり、家のまわり一帯に供物まきをしたりしました。

245 kamuynomi rok kamuynomi rok pa kor, rewsioka=an, a p, wentarap=an akusu,

245 若者たちは、皆で長い時間カムイノミを続け、皆で一晩過ごして朝になったのですが、私は夢を見ました。

246 húre rek tanne rek rerar kasi eseske tanne otop (tapop) tapop kasi ociw kane,

246 赤い長いひげが胸をおおい、長い髪の毛が肩の上におおいかぶさり、

247 siwnin amip mi wa, wattes-harkika eoarmuye,

247 黄色い着物を着て、ブドウヅルの皮の縄を1回だけ回してしばり、

248 oruipene tasiro sitomusi kane an síkeweri okkayo, apa or ta osirounoun kor ahun híne, ene hawean hi,

248 さやのない山刀を腰につけた、とても背の高い男が、戸口につかえつかえしながら入って来て、こう言いました。

249 "tan pon menoko e=ne wa itak=an ciki e=ínu katu ene an hi,

249 「いいか、若い娘のお前に、おれが話すことを聞け。こういうわけだ。

250 eani pak (pirka) kewtum or wa siretok or wa pirka p, mosir tuyka ta isam kunak a=ramú.

250 お前ほど、(よい)気だてにしろ美貌にしろよいものは、世界じゅうにいないと、おれは思う。

251 e=or unno patek yaynu=an kor án=an wa, e=kor ekasi turano eci=oká uske un a=eci=koékimne yakka pirka korka,

251 おれは、お前のことばかり思っていて、おじいさんと一緒に、お前たちが二人でいるところへ、殺しに行ってもよいのだけれど、

252 síno wen kaspa onne kaspa, e=kor ekasi turano a=e wa ne yakun kamuy i=koypak kuni a=ramú kusu,

252 おじいさんは、ほんとうに弱りすぎ、年取りすぎているので、一緒に食べたりしたら、神のとがめを受けると思ったので、

253 tan uske ta e=rewsi kuni, a=nu ka ki, a=nukár ka ki hikusu, ék=an wa a=e=ráyke wa

253 ここにお前が泊まることを聞きもし、見もしたから、来て、お前を殺

245-1 **kamuynomi** [kamuy-nomi 神・をまつる]〈カムイノミ(=神々におみき(御神酒)をあげて一定の作法にのっとってする祈祷の儀式)をする〉。

245-2 **rewsioka=an a p** レウシオカ アヌ アプ 〈一晩寝て翌朝になったが〉。次に夢を見た話が来ているが、時間的には前である。カムイノミ(神祈祷)ばかりしていて夜明ししたかのようにも聞こえるが、皆眠って、夢を見たのである。

246-1 **rerar kasi eseske** レラル カシ エセシケ [乳のある部分・の上・そこに(?)/その頭が(?)...をおおう] ひげが胸をおおうほど長い。

246-2 **tapop kasi ociw kane** タポプ カシ オチウ カネ [tap-o-p 肩・にある・もの] ここでは〈肩〉を指している。『知分類人』p. 104:「tapkup [<tap (肩) + kup (首、関節)] (ナヨロ)」。そうだとすると、tapop タポプ の語源は tapop <tapup <tapkup かもしれない。似た語形の tapkop タプコプ は(福満S)の言葉では〈丸い小山〉。[o-ciw その尻が・...に刺さる]

247-1 **siwnin** シウニン この方言では、緑を中心として黄色から青、青紫ぐらいまでを指す。明るい色から暗い色までを含む。この場合に熊が着ていた衣服の色は何色だったのだろうか。この直前に言っている húre rek フレ レク〈赤いひげ〉は、おそらく茶色だったろうから、それに対して熊のからだの色としては、紫や青や緑ではなさそうだから、黄色いような色だったのではなかろうか。なお、(福満S)は、siwnin シウニン は wenkamuy ウェンカムイ の色だと言っていた。その wenkamuy ウェンカムイ の着る衣服の siwnin シウニン がどんな色か、聞いておくべきだった。

247-2 **wattes-harkika** ワッテシハルキカ (語り手KM):〈ブドウヅルの皮のなわ〉。しかし、(福満S):wattes ワッテシ〈わら〉、wattes-harkika ワッテシハルキカ〈わらなわ〉。『知分類植』p. 177:「wattes ワラしべ」。harkika ハルキカ は〈縄(なわ)〉、(福満W):「綱やひもとは逆のよりかたをしてなう」。

247-3 **eoarmuye** エオアルムイェ [e-oar-muye ...で・一回だけ・巻いてしばる] (語り手KM):〈一回だけ巻いてしばった〉。

248 **oruipene** オルイペネ [oru-ipe-ne ただ...だけ・刀身・である] oripene オリペネ と言っているが、あとから語り手が訂正した。

250 **kewtum or wa siretok or wa pirka** ケウトゥム オル ワ シレトク オル ワ ピリカ 〈精神(気だて、心根)から言っても器量から言ってもよい/美しい〉、つまり、〈心根の点でもよいし、器量の点でも美しい〉。

253 **nukar** ヌカラ この場合、霊力の目で見えたことを言っている。

a=e=pónekonukunuku wa, e=ramacihi, kamuy or ta a=e=sí(si)parosukere kunak a=ramú kor, sán=an a p

して、骨までバリバリ食って、お前の魂に、神の国で、食事の世話をさせようと思って、山から下りて来たが、

254 oroyaciki menoko e=ne yakka, kamuy opitta e=tomo ohosari kunine, (e=yaye)e=yayeasurani kor e=an ya ka a=erámiskari no án=an.

254 なんと、お前は女であっても、神々が皆お前をかえりみて守ってくれるように、お前自身のことを神々に話して頼んでいたのだったが、そのことをおれは知らないでいた。

255 sán=an híne, tane, (a) a=paróho un e=osma humi ne kunak a=ramú a p sekor, mintuci tono i=sirkocotca.

255 山から下りて来て、今や、お前が口に入るかと思ったとたんに、カッパの王がおれを射た。

256 pe ne kusu eposokane, a=makéta híne ray ne yakka ray sinnaysam a=ki ruwe ne.

256 そのために、やっぱりおれは負けて死に、しかもとんでもないひどい死に方をしてしまった。

257 ne korka, asinuma ka, asinuma ne yakka aynu ne yakka kamuy ne yakka, iyosikkote kewtum anakne uwehosi okay pe ka somo ne p,

257 しかし、おれも、おれだって人間だって神だって、恋する気持ちに変わりはないのだが、

258 a=e=kótuk hene, nep ka sine itak póka a=e=(kota)kóytak hene, ki ka somo ki. pe ora, arwenkamuy ne eci=i=kár yakka kusu eci=epírka ka somo ki kusu,

258 おれはお前にくっつきもせず、何も、たった一言さえもお前にものを言いもしなかった。それなのに、お前たちがおれを完全な魔神にしてしまっても、それでお前たちには全然得(とく)にはならない。だから、

259 cananno póka kamuy or ta ene kamuy-ewtanne=an a hi néno i=sam eci=sónkokuste wa i=kore yakne, (e) ora a=eci=epírkare kus ne ruwe ne na, néno iki wa

259 簡単にでもいいから、以前おれが神の国の住人として暮らしていたときのように、おれのために祈ってくれれば、おれはお前たちを幸せにしてや

254-1 **oroyaciki** オロヤチキ　前もっては知らなかったことが、起こった出来事や見えた状況などから、あとになって「ああそうか、こうだったのだな」とわかった、というときに使われる副詞。

254-2 **tomo ohosari** トモ オホサリ　[連他動] [tomo-o-hosari ...の正面/真ん中・に・振り向く]〈...の方に振り向く〉。(ペナコリUT)：〈向いて見る〉。この語の含まれている部分、(千歳SN)：〈神様みんな見守ってくれていいことを与えてくれる〉。

255-1 **sán=an** サナン　〈川上方向から川下方向へ行く/来る/下る〉。山をおりることはran〈上から下へ下りる〉という。この熊は川沿いに下って来たのだろう。

255-2 **a=paróho un e=osma** アパロホ ウン エオシマ　osma オシマ〈...にとびこむ/とびだす〉は、これまでの例では、場所を目的語にとる他動詞で、場所を表す名詞のあとに un ウンは入らない(福満W, S)、(平取HK)、(二風谷KK, HC)(『音声資料1, 2, 3, 5, 6』)。

256　**sinnaysam** シンナイサム　[sinna-isam 別に・ない] (?)/ [sinnay・sam 別である・(<側)] (?) ray sinnaysam ki ライ シンナイサム キ〈とんでもないひどい死に方をする〉。ki キ が人称形となり、前の部分はその目的語になっている。『金虎杖丸』2184行目：「shinnaisam 妖怪、おばけ。今でも悪口に用ふ」。『久辞典稿』795：「shinnaisam　妖怪、オバケ」、705：「rai ne yakka rai shinnai sam aki ruwe-ne　悪い死に方をする、同じ死ぬにしてもざまの悪い死に様をするならん」。

258　**epirka** エピッカ　[e-pirka (それ)で・よくなる]〈それによってよくなる〉=〈それによって得をする〉、獲物がよくとれるとか、豊かになるとか、いろいろ恵まれる。

259　**epirkare** エピッカレ　epirka エピッカ の使役形。〈恵まれた暮らしができるようにしてやる〉。

i=kore!”

260 sekor, hawean kor, siyetaye yak a=takár.

261 híne mos=an híne a=ye akusu, (a) a=turá i=tura okkaypo utar ka néno wentarap pa ruwe ne yak ye pa kor,

262 ora easir, marattoho ka tuypa pa wa, ekayni ka omare pa. ora haruhu anakne, tuypatuypa pa wa, usa ekayni usa samamni (e,e,e,e) eymekkar.

263 haruhu a=e yakka pirka sekor (haweoka,a) a=i=wéntarapte p ne a korka, aep anakne poronno a=se p ne kusu, a=e ka somo ki no, eymek pa

264 híne ora nérok okkaypo utar, cananno póka, kamuy or ta kamuy iyorot kunine, sama sonkokuste kotom an híne ora,

265 a=kor ekasi a=epótara p ne kusu, (nuon) nani sirpeker turayram sáp=an.

266 ayne, tónoski pakita, a=kor ekasi oro ta arki=an,

267 akusu a=supa aep ka e katu ka (is,e,e) isam no, heru i=tere híne an. wa a=kosírepa orano a=kor ekasi apunno an wa a=kosírepa.

268 “inne utar i=rura wa,

るから、そうしてくれ」

260 と、言いながら、遠ざかって行った、という夢を見ました。

261 そして目が覚めてから、そのことを言うと、一緒に来た若者たちも、同じ夢を見たと口々に言いながら、

262 それから初めて、頭も切り落として、折れ木にのせました。それから肉は切りきざんで、折れ木だの倒木だのに分け与えました。

263 肉は食べてもいいと(彼らは言い)夢で言われたのでしたけれども、食べ物はたくさん持って来ていたので、食べないで、若者たちが、折れ木や倒木に分配してしまいました。

264 それから、簡単にですが、神の国で神の仲間入りができるように、祈ってやったようで、それから、

265 おじいさんのことが心配なので、すぐ夜明けと同時に皆で山を下りました。

266 そして、お昼ちょうどに、おじいさんのところまで帰って来ました。

267 すると、私が煮ておいた食べ物も、ほとんど食べずに、ただ私を待っていました。そして、私はおじいさんのところに帰り着き、おじいさんが無事でいるところに帰り着きました。

268 「大勢の人に送って来てもらっ

261-1 **a=turá i=tura** アトゥラ イトゥラ　直訳すると〈私が伴って来て私と一緒に来た〉。a=turá アトゥラ と言ってから i=tura イトゥラ と言い直したのかもしれない。
261-2 **néno wentarap** ネノ ウェンタラァ　直訳すると〈それと同じように夢を見た〉。

262　**marattoho ka ... omare pa** マラットホ カ ... オマレ パ　死んだばけもの熊が夢を見させてよい条件を出して頼んだので、初めて頭を切り取り、神の国へ帰れるように折れ木にのせてやった。しかし、ていねいにまつりはしない。《ペナコリUT》：「Puriwenkur プリウェンクル、普段の成績悪いから、その頭をまつらないで、ekayni エカイニ に kasi omare カシ オマレ する。折れた木にその頭をさしておく」。☞146-1, 243-1

263　**a=i=wéntarapte** アイウェンタラァテ　〈夢を見させられた〉とは、この場合、夢に現れた熊にそのように言われたことを言う。

264　**kamuy iyorot** カムイ イヨロト　iyorot は自動詞なので、この構文はわからない。前に kamuy or ta カムイ オッタ〈神の国で〉があるから iyorot イヨロト〈仲間入りする〉だけで足りる。

267-1 **katu ka isam** カトゥ カ イサム　慣用句で、〈ほとんど...しない、めったに...しない〉(福満W, S)。この場合は、おじいさんがほとんど食べた形跡もないことを言っている。
267-2 **apunno an wa** アプンノ アヌ ワ　apunno a, a, anu アプンノ ア、ア、アヌ と言っているのは、apunno a=anú アプンノ アアヌ〈(私たちはおじいさんを)静かに置いた〉と解釈できるが、後に語り手が言葉を補い、apunno an wa a=kosírepa アプンノ アヌ ワ アコシレパ と訂正した。

poronno aep ne yakka a=kor wa arki=an ruwe ne na ne na"

て、たくさん、食べ物も持って来たからね」

269 sekor hawean=an kor a=kotétterke hikeka, túnas hepuni hene moymoyke hene ki ka somo ki.

269 と言いながら、私はおじいさんに飛びつきました。けれども、早く頭を上げもせず、動きもしません。

270 orano(sa) sama a=omá wa a=nikánika ayne easir, hése (he) he ki híne itak. ramor or un itak.

270 それから私はそばに座って、ゆすぶってゆすぶっていると、やっと、フーッと息をして、ものを言いました。口の中でしゃべっています。

271 hikeka ne (haw, i) hawean pe ka a=erámpewtek hikusu, pan úseypo a=kar wa paro a=otte kor, a=temtemu ayne easir,

271 でも何を言っているのかわかりません。そこで、ぬるま湯をわかして、口にふくませながら、しばらくなでさすっていると、やっと、

272 esara-itak easkay noyne, ne hi orowano ne pirka aep a=se p ne kusu, a=ere,

272 声を出してしゃべれそうになり、それからその、よい食べ物を持って来たので、それを食べさせました。

273 akusu orano kéra pirka hi, esampesituri hi ye kor, e. (ponno) ponno ponno an wa a=ere ranke a=ere ranke kor án=an ayne, kewtumu osiroma hi ora easir,

273 すると、おいしいことや、気分がよくなったことを言いながら、食べました。ちょっとずつ休み休み、食べさせているうちに、おじいさんは気分が落ち着いて、それから初めて、

274 i=tura okkaypo, ne (iya) i=armoysam un kotankorkur poniwne okkaypo esapane wa i=rura p ne kusu ne poniwne okkaypo, a=kor ekasi eun onaha oro wa a=utek hi eysoytak,

274 一緒に来た若者、つまりあの山向こうの村おさの下の息子が、皆を率いて、私を送って来たので、その若者が、私のおじいさんに、父親の使いできたことを話しました。

275 "tapne, a=onáha,

275 「実は、父が、

276 'onnekur, yaywennukar kor an aan hi ka, a=erámiskari no án=an, orsetakko ki, wa, eytasa

276 『ご老人がどうしようもなく困っておられたのも知らないでいました。長い間そうだったのです。そしてあま

270-1 **a=nikánika ayne** アニカニカ アイネ 《語り手KM》:《ゆすぶってゆすぶってやっと》。nikanika ニカニカ は初出。起こすためにゆすぶることか。『萱野辞典』:「ニカニカ ワ モソソ 揺り起こす:揺り動かして眠りを覚ます」、「ニカニカ=あまり強くなく動かすこと」。

270-2 **ramor or un itak** ラモロルヌ イタク 《福満S》:《声を出さず心の中でしゃべる》。《語り手KM》:《口の中でしゃべる》。《ペナコリUT》:「息を出すか出さないかって本当に口の中で、口がモソモソしている...しゃべるくらい」。なにか言っているが声に出ず言葉にならなくて聞き取れない。すぐあとにこれの対語 esara-itak エサライタク が出ている。

271-1 **ne ... pe ka a=erámpewtek** ネ ... ペ カ アエランペウテク 《何...のかわからない》。

271-2 **pan úseypo** パヌ ウセイポ [pan-úsey-po うすい・お湯・(指小辞)]《ぬるま湯》。pan useypo kar《語り手KM》:《ぬるま湯をつくった》。

271-3 **par otte** パラ オッテ [口・につける] 口に含ませたことを言っている。

271-4 **temtemu** テムテム 《...をなでる、さする》。《福満W, S》: tempatempa テンパテンパ《もみ療治/マッサージする》

272 **esara-itak** エサライタク 【esara-itak (大きい)声を出して・しゃべる】《聞こえるくらい大きい声に出してしゃべる》。すぐ前の ramor or un itak ラモロルヌ イタク の反対。『バ辞典』:「esara-chish *v.i. to cry aloud.*」。『萱野辞典』:「エサラカムイノミ (高い声で)祈る」。esara は、[<e-sara その頭が・現れる] であろう。sara サラ は、《(隠れていて見えないものが)現れる/あらわになる》。

273 **kewtumu osiroma** ケウトゥム オシロマ [kewtumu o-sir-oma 気持ち・その尻が・地・におさまる]《気分が落ちついた》。

274-1 **kotankorkur poniwne okkaypo** コタンコロクル ポニウネ オッカイポ okkaypo オッカイポ という語を póho ポホ《...の息子》の代わりに使っている。okkaypo オッカイポ は所属形にならず、通常、「...の」というには kor コロ を使うところである。

274-2 **esapane wa** エサパネ ワ 直訳すると《その頭(チーフ)になって》。

276 **orsetakko** オルセタッコ [or(<oar)-setak-ko 全く・短時間の・(反語的意味の副詞をつくる接尾辞)]《ずいぶん長い間》。

ikemnu=an kusu, utannimara a=kousaraye.

りお気の毒なので、村人の一部をお分けします。

277 onnekur isam yakka isam okake ta supuyasak hi ka po a=tuyáskarap kusu, a=utánnimara a=kousaraye kus ne ruwe ne wa, (a) mak ne ciki pirka p an sekor, uwepekennu=an yak pirka na'

277 老人が亡くなられても、亡くなったあとに煙が絶えるのは、なおいっそうあわれですから、私は村人の一部をお分けしようかと思いますが、いかがでしょうか、とおたずねするように」

278 sekor, a=onáha hawean ruwe ne"

278 と父が言うのです。」

279 sekor, hawean akus,

279 と言いますと、

280 "mákani wen pe an! néno an pirka kewtumu an hawe ne yakun,

280 「どうして悪いものですか！そのようなご親切なお申し出でしたら、

281 topattumi ne manu p a=koyáywennukar, wa tane pakno, siknu he hemanta a=ki kor, (a=kor) a=mippoho matkaci a=resú póka eyaykoram-petetne kor, án=an ayne,

281 私はトパットゥミ(夜襲)というものに襲われて、どうすることもできず困りきって、それから、いままで、なんとかかろうじて生きてきて、苦労して孫娘を育ててきましたが、

282 ráy=an wa isam=an yakun, a=kotánu (ne) ne a p anakne earkinne supuyasak kuni a=ramú kor, án=an pe ne wa ne wa an pe póhene a=tuyáskarap humi ne pekor yaynu=an kor án=an a p

282 私が死んでしまったら、村だったところは、すっかり煙も絶えてしまうと思っていたのです。そして、そのことが、なおいっそう、あわれなような気がしていたのですが、

283 néno an pirka kewtumu, ney ta ne yakka kewtumu pirka p a=kor nispa ne kusu,

283 そのようなよい心根、あのお方は、いつでも心根のよいお方ですから、

284 sine aynu tu (ayr) aynu ne yakka, i=kowsaraye wa i=kore

284 一人か二人でも、分けてくだされば、若い人たちに子どもが次々に生

277-1 **mak ne ciki pirka p an** マク ネ チキ ピリカプ アン　直訳すると〈どうであればよいでしょうか〉。

277-2 **uwepekennu=an** ウウェペケンヌアン　この不定人称形は、引用文中の自称。父親は2人称で言ったはずだが、その言葉を引用している息子は、自分のことなので、引用文中の自称の形にして言っている。☞169

279　**akus** アクス　akun アクン のように聞こえる。しかし、haweanakun ハウェアナクン（＝hawean yakun ハウェアヌ ヤクン）〈言ったならば〉では文脈に合わないので、haweanakus ハウェアナクス（＝hawean akus ハウェアヌ アクス）と解釈する。

280-1 **mákani** マカニ　〈どうして〉。この文は反語。[<mak-an-i どのように・ある・こと]（？）『音声資料1』p. 16, p. 28で mak an hi と書いたのは、この mákani である。

280-2 **néno an pirka kewtumu an hawe ne yakun** ネノ アン ピリカ ケウトゥム アヌ ハウェ ネ ヤクン　〈そのようなよい心根がおありだというお話なら〉。この条件文の帰結は284の最後に出てくる。

281　**topattumi** トパットゥミ　☞37-1

yakne (e) pewre utar uwaste pa yakun, teeta ene kotankor=an a hi néno, a=kotánuhu sipirasa oasi hawe ne p, mákani a=kopan pe an?"

まれたならば、昔、私が村のおさをしていたときと同じに、私の村は、子孫がふえて、栄えていくようになります。そういうお話なのに、どうしてお断りするものですか」

285 sekor hawean kor cis kor eyaykopuntek.

285 と言いながら、泣いて喜びました。

286 rewsioka=an ora isimnehike nani, okkaypo (si), tu okkaypo, ne sapane wa i=rura okkaypo útek wa, kotanu un arpare akusu (na) sine ancikar sikamare nani,

286 一晩寝てから、翌日すぐに、若者、二人の若者を、その一団を率いて私を送って来た若者がつかわして、村へ行かせたところ、三日目になってすぐ、

287 a=kor ekasi kotanuhu okake ta oka rusuy pe aruwetusmak, menoko otta okkaypo otta ki pa ruwe ne yak ye pa kor, inne utar, pewre utar, na hoku sak pe ka hoku kor pe ka, mat sak pe ka oka wa, inne utar tura wa arki pa.

287 私のおじいさんの村のあとに住みたい人が、女も男も競い合って、集まって来たのだと言って、大勢の人々が、若い人たち、まだ夫のない者も夫のある者も妻のない者もいて、大勢の人々を伴って一緒に来ました。

288 ora nani, cise kar kuni, (ew) ewmonkatawnure pa wa, cise kar pa wa, sinna sinna, usinna usinna oka kunine, hoku sak pe anakne nani (hoku sak meno) mat sak okkaypo tura oka kunine, ne a=turá sapane okkaypo ye p ne kusu néno ne.

288 それからすぐ、皆で家をつくるしたくをして、家をたてて、めいめい別々に住むようにして、夫のない者はすぐに妻のない若者と一緒になるようにと、その私が伴って来た、皆を率いてきた若者が言いましたので、そうなりました。

289 ora, i=tura wa sapane wa i=tura wa ek okkaypo, par a=osúke wa a=kor ekasi onne pakno kasi a=oyki.

289 それから私について来て、一団を率いて私と一緒に来た若者の食事を私が作って、私のおじいさんが亡くなるまで、私たちは世話をしました。

284-1 **uwaste** ウワシテ 〈子孫が生まれてふえる〉。人間や植物について言う。動物が繁殖するのは uwatte ウワッテ (福満S)。

284-2 **sipirasa** シピラサ 直訳すると〈広がる〉。次々に子どもが生まれて子孫が末広がりにふえていく。

286-1 **útek** ウテク ここでは útek と、u ウ を高く発音している。これが、この語の広く行われているアクセントである。☞211 utek ウテク

286-2 **sine ancikar sikamare** シネ アンチカラ シカマレ sikamare シカマレ [si-kama-re 自分・をまたぐ・させる]は、間を一つとばして次の次を指す言い方で、この場合は、今晩のあと中一晩おいて、つまり二晩を過ぎた三日目を言う。(語り手KM):〈二晩泊まって〉、「今日行ってあさって来た」。(福満S):sine cup sikamareno シネ チュプ シカマレノ〈中一カ月おいて次の次の月に〉、íne to sikamare he ne ya asikne to sikamare he ne ya イネ ト シカマレ ヘ ネ ヤ アシクネ ト シカマレ ヘ ネ ヤ〈四日後か五日後に(明日から数えて五日目か六日目に)〉。

287-1 **otta** オッタ [<or ta ...のところ・に] 同類のものを二つ並べて、...otta ...otta ... オッタ ...オッタ〈...も ...も〉〈...とか ...とか〉。位置の意味はなく、一種類だけではないことと同時に、たくさんであることを表す。ka カ〈も〉にも似た用法があるが、これは、ekasi ka an húci ka an エカシ カ アン フチ カ アン〈おじいさんもいた、おばあさんもいた〉=〈おじいさんとおばあさんがいた〉のように、二種類が一つずつの場合もある。ほかに、...ne ya ...ne ya ...ネ ヤ ...ネ ヤ とか、...ne ciki ... ne ciki ...ネ チキ ...ネ チキ なども、似た用法で使われる。

287-2 **yak ye pa** ヤク イェ パ yakipa ヤキパ と聞こえるが、語り手に確かめた。

288 **ewmonkatawnure** エウモンカタウヌレ 初出。文献にも見あたらない。(語り手KM):〈(家をつくる)したくをした〉。

289 **par a=osúke** パラ アオスケ 前の語(目的語)と par パラ の間に区切りがある。こういう場合は、(福満W, S)などは par パラ でなく paro パロ を使っていた。

290 kasi oyki wa pirkaonnere yak pirka sekor onaha oro wa a=ye wa ek pe ne kusu aoká ka, asir cise, síporo cise a=kar wa,

290 世話をして、見送るまで大事にしてあげるようにと、彼は父親から言われて来たので、私たちも新しい大きな家をたてて、

291 usa ikor ne ciki, (a=se easkay pakno,) se easkay pa pakno, i=armoysam wa se wa arki pa utar, pon (iyorkir) iyoykiri ne yakka kar pa wa,

291 いろいろ宝物などを背負えるだけ、山向こうから背負って来た人々が、小さな宝壇も作って、

292 hempak cise (no) ne korka aynueniste a=ki pa kor, ne (o) i=armoysam wa a=turá wa ék=an okkaypo a=esóne wa, a=epírka a=eníste kor, a=kor ekasi kasi a=oyki par a=oyki

292 数軒ですけれども、人と一緒で心強く思いながら、私は山向こうから伴って来た若者と一緒になって、幸せになり、頼りにしながら、おじいさんの世話をし、食事を食べさせ、

293 orowa easir okkayo kar pe, a=kor ekasi onne etok ta, ene e rusuy hi néno a=ere, kasi a=oyki pirka a=tomte ki kor, oka=an rápok, pókor=an ka ki.

293 それから初めて、男のつくったものを、私のおじいさんが亡くなる前に、食べたいとおりに食べさせ、世話をし、大事にしながら暮らしている間に、子どもも生まれました。

294 pewre utar ne pa p ne kusu, usa usa pókor pa ka ki pa wa, aoká patek somo ne no i=ekotanne pa p opitta a=kor ekasi, kamuy sirine, núnuke pa wa,

294 みんな若い人たちですから、それぞれに子どもも生まれ、私たちだけでなく、私たちの村人になった人は皆、私のおじいさんを、神様のように大切にしてよく尽くし、

295 uwepirka=an uweniste=an kor oka=an ayne a=kor ekasi, pókor=an siri ka nukar kane pakno, (a,a) i=koonne wa tane, (eyay) yaywennukar wa sinrit or oarpa kus ne etoko ta,

295 皆で幸せに頼りにし合って暮らしていて、とうとう、おじいさんは、私に子どもが生まれたのも見るまで、一緒にいて長生きし、そしてもう、どうしようもなくなって、先祖のところに行こうというその前に、

292-1 **hempak** ヘンパク 〈いくつの〉という意味の疑問連体詞としてよく使われる語だが、ここでは〈数個の〉、つまり、あまりたくさんでないことを表す。ほんの数軒の、数えるほどの家しかなかったことを言っている。

292-2 **i=armoysam** イヤルモイサム 舌がもつれたらしい。語り手があとでこのように訂正した。

292-3 **esóne** エソネ 〈…と結婚する〉。(語り手KM)：「a=kor アコロ とも言うし、a=esóne アエソネ とも言うが、a=esóne アエソネ はきれいな言葉」。『知分類人』p. 520：「esokesne (チカブミ) 妻になる；yay-sokesi-nukar (ホロベツ) [雅] 妻にする；結婚する」。

292-4 **par a=oyki** パラ アオイキ 目的語(a=kor ekasi アコロ エカシ)と par の間が離れている。こういう場合は、(二風谷NK)や(福満W, S)らは、par パラ でなく paro パロ を使っていた。☞289

293 **okkayo kar pe** オッカヨ カルペ 直訳すると〈男がつくったもの〉、しかしここでは、男が狩猟や鮭漁などでとってきたものを言う。女性は植物類と小魚ぐらいしかとらなかったので、男がいないと熊の肉や鹿の肉も食べられなかった。☞民話(1) 208-2

295 **koonne** コオンネ 〈…と一緒に年取る〉。「私と一緒に年取った」とは、(語り手KM)：「一緒に年取った、自分が子ども生まれたの見るまで ekasi エカシ が達者で年取った、子どもできたの見るまで、ひこ見るまで年取った」。

296 "kewtumu pirka, i=armoysam un nispa, an kusu keraypo a=kotánu hepuni oasi siri, a=nukár wa sinrit or unno, a=ye kor pirka onne a=ki.

296「心根のよい、山向こうのお方のおかげで、私の村がまた栄えていきそうなのを見て、そのことを先祖に言いながら、幸せに年をとりました。

297 ora a=kor wa okay pe, (m) sinep póka, yaykata a=kor pe, (a) a=kokówe a=komúye easkay yakun po pirka korka,

297 それから私の持ちものを、たった一つでも、私自身が持っているものを、婿(むこ)どのに形見にあげられれば、もっといいのですが、

298 a=kor wa okaype(pi) aoypepi opitta, pirka uske tekenumke pa wen uske uhuyka pa wa isam pe ne kusu nep ka, a=siyépere ka somo ki no, a=siyókaomare. yayeoripak=an kor ne korka, nispa eniste kamuy eniste a=ki wa, onne=an siri ene an,

298 私の持ちものや宝器類はみんな、よいところは選んで持って行かれ、悪いところは燃やされてしまったので、何も遺産をあげずにお別れします。申しわけないとは思いますが、神のような立派な長者を頼りにして死んで行きます。

299 yakka i=okake ta, a=matnepoutari a=mippoutari inne pa wa sukup pa yakun, a=kotánu hepuni wa, kamuy or wa án=an wa ne yakka, mína=an kane a=kor son utar a=nukár wa án=an (easir,) easkay siri ene an wa

299 でも私の死後に、私の娘たち、孫たちが大勢になって、育ったら、私の村は栄えていくでしょうから、私は神の国に行っていても、ニコニコ笑いながら、子どもたちを見ていることができるようですので、

300 (p) páse (iyayira) yayirayke a=ki wa tane (iyosi) ihosi=an siri ne na"

300 深く感謝して、いまあの世へ向かって行くのです」

301 sekor a=kor (ew) ekasi hawean kor onne.

301 と、おじいさんは言いながら亡くなりました。

302 onne p ne hikeka kewkurkasi a=eyáysirpa,

302 亡くなったのですけれども、私はその上にかぶさって、なきがらをな

296　**oasi siri** オアシ シリ　oas siri オアシ シリ と発音しているが、二つのｓの間でｉが無声化して脱落したものである。

297　**komuye** コムイェ　【他動】[ko-muye ...に・束ねる] 初出。(語り手ＫＭ)：《持たせる、形見にやる》。

298-1 **pirka uske...** ピリカ ウシケ　直訳すると《彼らがいいところを手で選び悪いところは燃やしてしまった》。このような場合、日本語のように受け身にしないのが普通である。

298-2 **siyepere** シイェペレ　初出。[si-epe-re 自分を・(？)・...させる] (語り手ＫＭ)：《やる(与える)》、たとえば a=siyépere p ka isam アシイェペレァ カ イサム《なにもやるものがない》。

298-3 **a=siyókaomare** アショカオマレ　直訳すると《...を自分の後に置く》。婿(むこ)を残して死んでいくことを言っているのだろう。

298-4 **nispa** ニシパ　《長者》。ここでは若者の父を指す。

299-1 **mína kane** ミナ カネ　《笑いながら》は、《うれしい気持ちで》。

299-2 **a=kor son utar** アコロ ソヌ ウタラ　《私のいとしい子どもたち》。son ソン [<si-on ウンチの古くなったの] は、「ほんとうにいとしい大事な」というニュアンスをもって子どもを言い表す語の一つ。

300　**ihosi** イホシ　【自動】[<i-hosi ひと・から離れて別のところへ行く](？)《他界する》。初出。『久辞典稿』：「ihoshi-so《別に設けた座》」。「民話(1)」188：ehosino《...に背を向けて》。(福満Ｓ)：ehosi《(正位置の基準など)からはずれて、...と違って》。

302-1 **kewkurkasi eyaysirpa** ケウクルカシ エヤイシルパ　《(相手の)体をなでさする》。(ペナコリＵＴ)：《死んだ人の kewkurkasi ケウクルカシ にかぶさって、なでて、かぶさって泣いた》。☞214

paraparak=an kor, tutko ka rerko ka a=koyáysamne, a=utári i=koyaysamne.

でながら、声をあげて泣き、二日も三日も、ひまとりしました。村人たちは悔やみに来てくれました。

303 i=armoysam (u) wa ka inne utar arki pa wa, sorekusu kamuy osura kuni okkaske ta a=kor ekasi a=onnere.

303 山向こうからも、大勢の人が来てくれて、それこそ、神様を送るよりももっと立派に、私たちはおじいさんを見送りました。

304 a=eyáyram(u)nuyna wa, okake ta oka=an hikeka ney ta pakno a=kor ekasi a=oyra humi ka isam no,

304 私たちは、なきがらを葬ってから、その後も暮らしていましたが、私はいつまでも、おじいさんをちっとも忘れることができなくて、

305 a=eyáykosiramsuypa kor, cís=an kor ne hikeka, uka un uka un pókor=an wa, a=utári ne yakka pókor pa, wa posiresikte=an pa.

305 考えては泣いていましたが、泣きながらでも、次々に子どもが生まれ、村人たちにも子どもが生まれて、村は子どもがたくさんになりました。

306 nep (asir) a=esírkirap nep a=kor rusuy somo ki no, pirka uweturaste=an pa wa oka=an rápok tane, a=poutari ka rupne pa wa usa usa yayeramkote hi néno cise kar pa p (a),

306 私たちは何も不自由なく、何がほしいと思うこともなく、満ち足りて、幸せに、仲良く一緒に暮らしているうちに、いまはもう子どもたちも大きくなって、それぞれ結婚するにしたがって、家をたてましたが、

307 pe ne kusu (he) appake ta hempak cise ne a korka, inne kotan, poro kotan, kotan esapane p a=hekóte nispa ne wa y a y ' u t a r k a m u r ė yaykotankamure.

307 そのため、初めは数軒だけだった村が、村人の多い大きな村になり、私の夫が村のおさで、村人を大切にし、自分の村を大切にしました。

308 isramne noyne okay pe anakne a=imékkore.

308 生活に困っているらしい人たちには、食べ物などを持って行ってあげ、

309 imi otta ipe otta, ene ne wa ipe pa kuni a=esánniyo, wa,

309 着るものだの食べるものだの、どうすれば食べていけるかを考えて与

302-2 **koyáysamne** コヤイサムネ　[ko-yaysamne ...とともに・それだけである](?) 前のは(語り手KM)：《(二日、三日)ひまとりした》。あとの a=utári i=koyaysamne アウタリ イコヤイサムネ は(語り手KM)：《(村の人たちが)悔やみに来てくれた》。(ペナコリUT)：《自分らの連れと一緒に》、《二日も三日も自分の連れの人らと一緒に泣いて》、「連れの人らも i=koyaysamne イコヤイサムネ といえば、《何もしないで》」。

303-1 **kamuy osura** カムイ オスラ　osura は、《...を投げる/捨てる》ことを表すのによく使われるが、ここでは《神を(神の国に)送る》ことを言っている。《...と離別する》ということであろう。離婚することにもこの語が使われる。

303-2 **okkaske ta** オッカシケ タ　《...より以上に、...よりもさらにまさって》。

304　**a=eyáyramnuyna** アエヤイラムヌイナ　mのあとにuを入れて発音しているが、後に語り手自身が、このuのない発音が正しいと言って訂正した。口ごもって間(ま)があいたために入った音であろう。

306-1 **uweturaste** ウウェトゥラシテ　(福満W, S)は uheturaste ウヘトゥラシテ《一緒に暮らす》。『萱野辞典』：「ウウェド ラシド ラシ　仲睦まじい、仲がよい；子犬がじゃれて立ち上がり立ち上がりしているように仲がよい」。(福満W)の言葉では、eturas エトゥラシ《(子犬がじゃれて立ち上がり)...にとびつく》にはhがないが、この語にはhがある。

306-2 **yayeramkote** ヤイェラムコテ　yayeramekote ヤイェラメコテ と聞こえるが、あとで語り手自身が訂正した。(語り手KM)：《結婚する》。80の eyayramekote エヤイラメコテ と関係があるか。あるとすれば、《所帯を持つ》か。☞80-4

307-1 **pe ne kusu** ペ ネ クス　前から続けて言えば cise kar pa p ne kusu チセ カル パプ ネ クス と言うところだが、pのあとで息つぎをして区切ったため、peをくりかえしている。母音のあとでないとpは出ない。

307-2 **appake** アッパケ　(福満W, S)は atpake アトパケ。『久辞典稿』：atpaketa.『中千辞典』でも アッパケ atpake.

307-3 **yay'utarkamure yaykotankamure** ヤイウタルカムレ ヤイコタンカムレ　[自分・村人・をかぶる・させる] [自分・村・をかぶる・させる] (語り手KM)：《村を大事にして、えらいからってえらくならないで全部の人と仲良くやっていく》。

308　**isramne** イシラムネ　《貧しい、生活に困る》。(語り手KM)の訳では、《家族が多かったり...生活に困る人》。(二風谷NK民話)：isram イシラム/isramne イシラムネ《貧しい》(『音声資料6』)。

a=korpare p ne kus póhene, i=tukarike koran'atte pa wa, a=i=úkopekapeka katkemat nispa a=ne pa wa, ekasi oka ta, pirka sukup a=ki.

えましたので、なおいっそう、私たちは皆から敬われ、皆に大事にされる長者夫婦になって、おじいさんの死後、幸せにすごしました。

310 ora a=siwtoutari onne pa hi ta, (ut) utukari ta utukari ta (o) onne pa hi ta,

310 それから、しゅうとたちが亡くなったときに、あい前後して亡くなったときに、

311 pókosipuyne=an hi ta, (a) a=siwtoho kotanuhu ta apkas=an hi pakno ne wa, pósiresikte=an hi orano, pó(es)esireokok=an wa yaykata anakne apkas=an somo ki hikeka,

311 子ども一人か二人ぐらいのときに、しゅうとの村に行っただけで、子どもがたくさんになってからは、子どものことで忙しくて、自分では行くこともありませんでしたけれども、

312 a=siwto a=yupíhi i=kosinewe i=hotanukar, néno, a=hekóte nispa ne yakka, kotanuhu hotanukar kusu, sine pa, tusuy ka resuy ka ukopayoka.

312 義兄が遊びに来たり、様子を見に来たりしてくれます。同様に私の夫も、自分の故郷の村の様子を見に行き、一年に二回も三回も、お互いに行き来します。

313 kusu, ukoytaknu=an pa kor, oka=an ayne, ekasi oka, a=supúyaatte wa pirka onne a=ki p ne a kusu a=ye sekor.

313 ですから、私たちはお互いに話を聞き合いながら暮らしていて、おじいさんの死後、煙を絶やさずに、幸せに年を取ったので、語りました、とさ。

309-1 **i=tukarike koran'atte pa** イトゥカリケ コラァアッテ パ 《私たちの前で目を伏せた》とは、私たちを大切に敬ってくれたということを言っている。(福満Sユーカラ)では、i=tukarike kosikerana-atte イトゥカリケ コシケラナアッテ《私をまともに見ず、目を下の方へ伏せている》が同じように、敬いへりくだる様子の表現に使われている。ここでは、なぜか sik シク《目》の部分が欠けている。

309-2 **a=i=úkopekapeka** アイウコペカペカ [uko-péka-péka 一緒に・受け取る・(重複)](?)《私たちは大事にされた》。次に katkemat nispa a=ne pa カトケマト ニシパ アネパ《私たちは…長者夫婦になった》と言うのだから、この動詞は、目的語3人称の形 a=ukópekapeka アウコペカペカ だと理屈が通るのだが、(語り手KM)の言葉なのだろう。同じ地域の他の話者の言葉も未詳。

310 **utukari ta utukari ta onne pa** ウトゥカリ タ ウトゥカリ タ オンネ パ utukari は[u-tukari 互い・のすぐ手前]。《相次いで/相前後して亡くなった》。(語り手KM):《どっちが先に死んで、どっちがあとに死んだ》。

311-1 **pókosipuyne** ポコシプイネ [po-ko-si-puyne 子ども・と共に・自分・だけ]《子どもが少ない》。puyne プイネ は、一人だけとか、二人だけとか、大人がいなくて子どもたちだけとか、というときに使われる。(語り手KM):pókosipuyne=an hi ta ポコシプイネアニ タ《子どもが少ないとき、子どもが一人か二人ぐらいのとき》、posipuyne ポシプイネ は子ども一人ぐらいのとき。

311-2 **póesireokok** ポエシレオコク [po-e-sir-eokok 子ども・で・地・にひっかかる]

312 **a=siwto a=yupíhi** アシウト アユピヒ 《私の夫(または妻)の兄、私の義兄》。(福満S)の言葉では a=siwtoyupi(hi) アシウトユピ(ヒ) と言った。

313-1 **oka supuyaatte** オカ スプヤアッテ [oka supuya-atte …の後・煙・…を…に掛ける] または [oka supuya-at-te …の後・煙・(煙が)立つ・させる]《…の死後に煙を立たせる》。oka のあとに《に》に当たる助詞がなく、一方、supuyaatte スプヤアッテ には、目的語を指示する接頭辞がついていないので自動詞の形だが、oka オカ を目的語とする他動詞として使われ、つまり二語で連他動詞の形になっている。

313-2 **pirka onne a=ki** ピッカ オンネ アキ (ペナコリUT):《自分も立派に年いった》、《いい年寄りになって亡くなった》、「こういうわけだったから、言って死ぬからっていう、言い置き」。